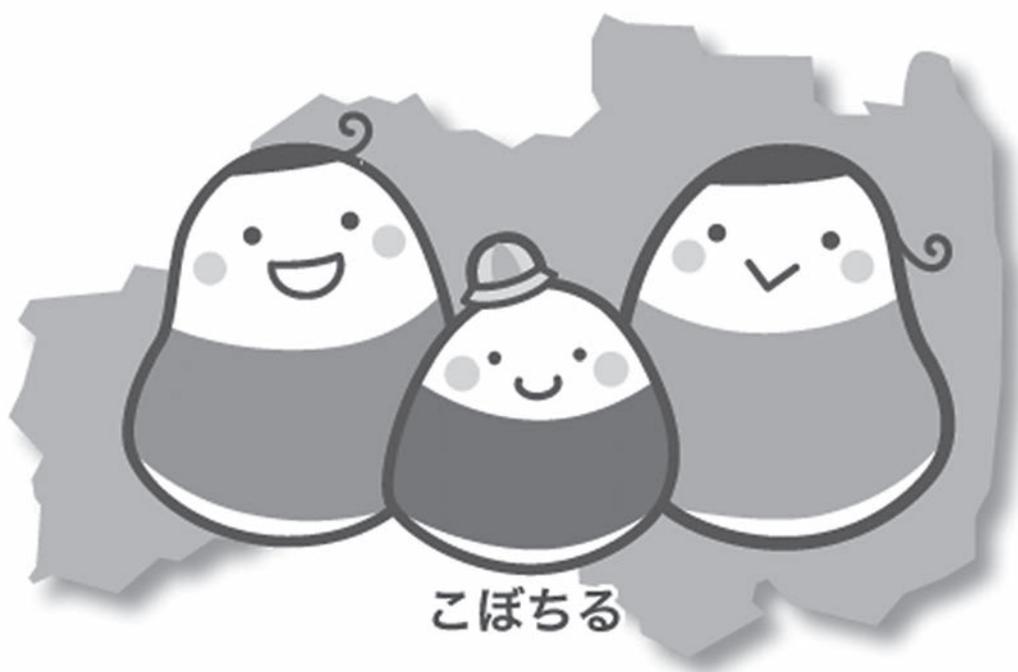


子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

平成25年度 活動報告書



福島県立医科大学
エコチル調査 福島ユニットセンター

目 次

あいさつ ～“福島のがお”を応援します～

福島ユニットセンター長 橋本 浩一	1
1. エコチル調査の概要	3
(1)背景	3
(2)環境省による企画・実施	3
(3)調査の内容	3
2. 平成22～24年度の主な活動実績	5
(1)リクルート等の実績	5
(2)調査推進のための活動	5
3. 平成25年度活動実績	7
(1)リクルート等の実績	7
(2)フォローアップ活動	10
(3)地域運営協議会開催	11
(4)市町村訪問	12
(5)医療機関訪問	12
(6)広報活動	13
(7)謝礼支払いに、電子マネー導入	20
(8)その他研修等	21
4. 実施体制	24
(1)協力体制	24
(2)ユニットセンター実施体制	25
◎ 資料	
1. 全国集計データ分析結果	26
2. リビング福島・郡山「エコチル通信」掲載	33
3. ニュースレター	36
4. エコチル調査協力医療機関	38
5. 平成25年度 福島ユニットセンターの組織図	40

あ い さ つ

エコチル調査 福島ユニットセンター
センター長 橋 本 浩 一

“福島のがお”を応援します

日頃はエコチル調査にご理解、ご協力を賜りまして感謝申し上げます。エコチル調査リクルート期間最終年度の福島ユニットセンターの活動状況を報告いたします。

平成23年1月31日からリクルートが開始されたエコチル調査は、当初、調査対象地域を福島市、南相馬市、双葉郡の8町村としました。開始間もない3月11日に東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故に見舞われ、双葉郡でのリクルートは中断せざるを得なくなりました。他方調査対象地域が限定されている本調査に対し、調査対象地域外の妊婦さんや医療機関から全県下での実施を望む声があり、平成24年10月1日から対象地域が59市町村に拡大されました。

調査対象地域が全県下に拡大されてからは瞬く間の1年半でしたが、特に最後の1年間は、多くの関係者に多大な負担をおかけしながらも、参加者のご理解に支えられ予想以上のスピードでリクルートが進められました。

エコチル調査は、3年間のリクルート期間が今年の3月31日に終了し、全国では参加者(妊婦さん)が目標の10万人を達成しました。

福島県全域のご家族に参加をお願いしている福島ユニットは、お母さん(妊婦さん)が13,132人、お父さんが8,180人、誕生した赤ちゃんが約9,922人と全体で約3万1千人の方々に本調査に登録していただいております。福島でのリクルート終了時の参加者同意率は約8割、カバー率は約5割でした。調査開始以来、「福島県の妊婦さんの2人に1人」が本調査に参加いただいたということです。さらに参加者からの質問票の回収率は約9割であり、本調査に熱心に取り組んでいただいていることが伺えます。本調査への県内のご家族からの期待の大きさと責任の重さを感じます。

また、リクルート終了に際し、産婦人科医療機関のスタッフから「達成感」というお言葉をお聞きしました。この「達成感」は、当然参加者のご理解、そして県内59市町村の担当者、52の産婦人科医療機関のスタッフ、約180人の地域運営協議会の委員、小児科医療機関のスタッフなど関係者の皆さま方の、当センタースタッフ70人へのご協力の賜物と思います。

特にリクルート最終年度は「草の根から」の考えに基づき、各医療機関で参加者へのていねいな説明、講演会、エコチルコンサート、6ヵ月児及び1歳半児とその親を対象とした茶話会(エコチルふれあい会)など様々な取り組みをしました。PRの一環として行なったキャラクターのネーミングコンテストでは福島県内外から1,095通の応募があり、全国からの反響の大きさには驚きました。決定したキャラクターの「こぼちる」は、福島県を代表する民芸品である起き上がり小法師をモチーフにしており、転んでも起き上がりすくすくと元気に育つ子ども(赤ちゃん)をイメージし、「子どもの健やかな成長」を願う想いが込められています。

当センターは、未来に向かって歩み始めた福島県の復興とともに、微力ながら「福島で産み育てる」ことをお手伝いすることを最大の課題とし、一方で、未来の子ども達に確かなエビデンスをプレゼントするため、参加者、関係者の皆さまと立ち止まることなく、一緒に成長し続けたいと考えます。私たちは“福島のえがお”を応援します。

平成26年6月



1. エコチル調査の概要

(1)背景

『エコチル』とは、「エコロジー」と「チルドレン」を組み合わせた言葉で、『エコチル調査』は、「子どもの健康と環境に関する全国調査」の愛称である。

近年、子どもの間では、ぜん息やアトピーなどの疾病が増加しており、その多くは生活環境の中の物質、運動や食事などの生活習慣、遺伝的な性質などが関係しあって起こるとされている。

小児は各器官の構造や機能が成熟する時期が異なり、また身体的特徴や行動特性によって環境中の有害物に対する特異的な曝露形態があり、化学物質の体内動態にも成人と違いがあるなど、子ども特有の脆弱性が認められる。

このような環境リスクが子どもに与える影響を明らかにするため、実際の人の集団で観察する疫学的なアプローチが重要であることから、これまでに例を見ない大規模な調査を実施することとなった。

(2)環境省による企画・実施

環境省が主体となって検討が進められ、平成22年度から全国の15地域でエコチル調査が開始された。

- ① 平成20年4月 「小児環境保健疫学調査に関するワーキンググループ」設置
- ② 平成21年9月 「子どもの健康と環境に関する全国調査に関する検討会」設置
- ③ 平成22年3月 「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」
基本計画を作成・公表
- ④ 平成23年1月 「エコチル調査・妊婦さんの参加者募集」を開始
- ⑤ 平成24年10月 全国15地域を対象に、調査で解析する環境要因に放射線を追加するとともに、福島県における調査対象地域を全県に拡大

(3)調査の内容

1)期 間

- ① 平成23年1月～26年3月 参加者募集(リクルート)
- ② 平成23年1月～39年 全体調査

- ③ 平成26年10月～39年 詳細調査(居住・生活環境調査、医学的検査、精神神経発達検査)
- ④ 平成39年～44年 解析

2)対象地域

- 全国15地域(北海道、宮城、福島、千葉、神奈川、甲信、愛知、富山、京都、大阪、兵庫、鳥取、高知、福岡、南九州・沖縄)
- 福島の対象地域 平成23年1月～県北・双葉郡等の10市町村
(福島市、南相馬市、双葉郡8町村)
23年6月～県北の4市町を追加(伊達市、伊達郡3町)
24年10月～全県(上記含めた59市町村)

3)対象者

- ・ 調査対象地域に住民票があり、かつ協力医療機関で出産した母親・子ども及び父親で、エコチル調査に同意をいただいた方
- ・ 全国で10万組の母親・子どもの参加を目指す

4)調査項目

- ① 母親に実施される項目
 - ・ 妊娠初期及び妊娠後期 : 質問票、採血、採尿
 - ・ 出産時 : 臍帯血採取
 - ・ 出産後 : 採血、毛髪採取
 - ・ 出産後1ヵ月健診時 : 母乳採取、質問票
 - ・ その後半年ごとに見13歳まで : 質問票
- ② 児に実施される項目
 - ・ 出産後 : ろ紙血採血
 - ・ 出産後1ヵ月健診時 : 毛髪採取
- ③ 父親に実施される項目
 - ・ 採血、質問票
- ④ 母親参加者総数の5%の参加者を対象に実施される項目
 - ・ 1.5歳児、3歳児、6歳児以降1～2回 詳細調査(居住・生活環境調査)
 - ・ 2歳児～2歳ごとに12歳まで 詳細調査(医学的検査、精神神経発達検査)

2. 平成22～24年度の主な活動実績

(1) リクルート等の実績

1) 平成23年1月～25年3月までの母親参加者数	5,908人
① 22年度(23年1月～3月)	184人
② 23年度(23年4月～24年3月)	1,497人
③ 24年度(24年4月～25年3月)	4,227人

リクルートを開始して約2年間で、5,908人の母親の参加を得た。特に対象地域を全県に拡大した24年10月以降、大幅な増加となった。

2) フォローアップ活動

妊娠初期～生後1ヵ月については、医療機関や当センターのRCにおいて回収状況などの進捗管理を実施し、生後6ヵ月～2.5歳は当センターにおいて、回収状況の確認、質問票への記入漏れをチェックした。

その際、メンタルチェック等で気にかかる回答がある場合は、参加者に直接電話連絡をとり、近況の確認や育児相談等に応じた。

(2) 調査推進のための活動

調査開始前から、市町村及び関係医療機関などに本調査の意義などを説明し、協力体制づくりに努めた。調査開始後も、県民に周知を図り、参加者の協力を得るため、広報活動に力を注いだ。

また、対象地域を全県に拡大する直前の平成24年8月に、県全域で「エコチル調査に関する認知度調査」を実施したところ、既に実施していた県北地域では47%であったが、その他の地域では20%程度であった。このため、エコチル調査に関する意義を理解してもらい、認知度を高め、1人でも多くの妊婦さんに参加いただくよう、様々な活動を展開した。

1) 市町村及び医療機関訪問

- ・ 調査開始時に県内の全市町村及び産婦人科を抱える52医療機関訪問を実施

2) 地域運営協議会開催

- ・ 22年度：2回、23年度：3回、24年度：4回

3) RC代行研修実施

- ・ 22年度：3回、23年度：6回、24年度：10回

4) イベント等開催

- ① 23年度：参加者を対象に「よみきかせ&エコチルコンサート」を開催
(3月10日：福島市)
- ② 23年度：医療機関スタッフ及び参加者を対象に「放射線に関する講演会」を2回開催
(7月4日、10月9日：福島市)
- ③ 24年度：県民及び参加者を対象に「エコチルコンサート」を2回開催
(10月28日：本宮市、11月3日：福島市)

5) ふれあい会開催

- 24年度：県北地域参加者の0.5歳児及びその親を対象に3回実施
(6月6日、8月29日、12月19日：福島市)

6) 広報活動

- ① マスコミでのPR
 - ・ テレビ・ラジオ・新聞・地域情報誌等にCMを提供
- ② ニュースレター発行
 - ・ 参加者向けの「ふくしまエコチル新聞」を発行(23年度：2回、24年度：2回)
- ③ 市町村広報誌等への記事掲載(23年度：5回、24年度：12回)

3. 平成25年度活動実績

(1) リクルート等の実績

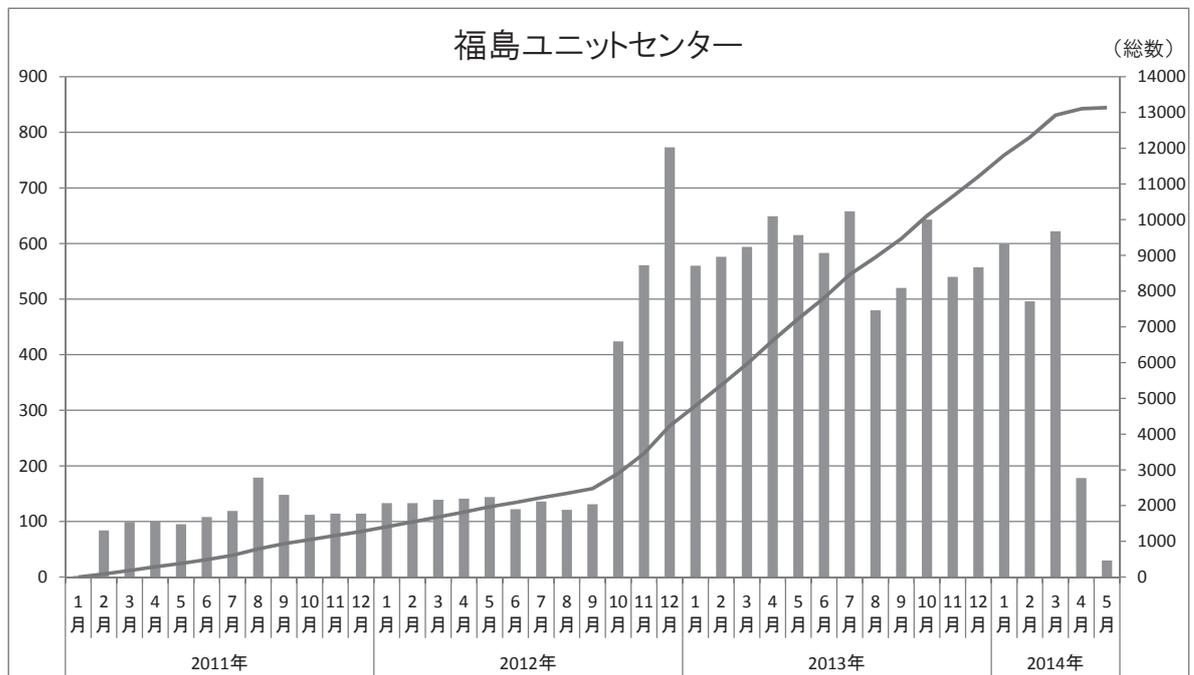
1) 母親参加者数は、13,132人

平成23年1月に、福島市及び相双地域9市町村でリクルートを開始し、その後県北地域の4市町を加え、さらに24年10月からは県内59市町村を対象に参加者募集を行なった。そして平成26年3月31日をもってリクルートは終了した。

約3年2ヵ月にわたるリクルートの実績は、母親が13,132人、また平成26年6月23日現在父親が8,180人、この間誕生した子どもさんは9,922人に達し、合計約3万1千人、本県人口194万人の約1.6%の県民がエコチル調査に直接関わっているという状況となった。母親は、妊婦さんの「2人に1人が参加した」という、これまでに例のない大規模な調査となっている。

なお、計画上の目標は母親の参加者が15,900名であったので、達成率は82.6%となった。また、声をかけ、参加に同意した妊婦さんの割合は、79.6%であった。

月別母親参加者数の推移(平成23年1月～26年5月)



保健所管轄別参加者数(平成26年6月23日現在)

保健所管内別	お母さん	お父さん
福島県 県北	5,711	4,373
〃 県中	1,243	594
〃 県南	843	578
〃 会津	1,279	411
〃 南会津	128	60
〃 相双	390	291
郡山市	1,743	1,028
いわき市	1,789	830
その他(※)	6	15
計	13,132	8,180

※「その他」：他ユニットセンター調査対象地域在住者で、本県協力医療機関で出産しリクルートした者

年度別リクルート数及び同意率

年度	声かけ(人)	リクルート(人)	不同意(人)	同意率(%)
22	233	192	41	82.4
23	2,034	1,530	504	75.2
24	5,277	4,227	1,050	80.1
25	8,953	7,183	1,770	80.2
計	16,497	13,132	3,365	79.6

*「声かけ(人)」：声をかけ、エコチル調査について説明をした人数

平成26年4月2日 福島民報新聞

福 島 民 報	
<p>平成二十三年一月から始まった「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」の参加募集が三月三十一日で締め切られ、同日現在で本県から一万二千七百二十九人の母親が登録した。一日、福島医大エコチル調査福島ユニットセンターへの取材で分かった。本県の妊婦の二人に一人が登録したと</p>	<p>本県地域は登録目標の一万五千九百人には届かなかったものの、対象となる全国十五地域のうち、最多登録数となり、全体の12・6%を占めた。次いで宮城県地域の九千人台、北海道地域の七千人台などが続いた。全国では三十一日現在で十七万一千百六人が登録し、目標の十万人を達成した。</p>
<p>エコチル調査は子どもが十三歳になるまで、化学物質や放射線による放射性物質などによる放射線物質などの環境要因が成長・発達にどう影響するかを追跡する大規模な疫学調査。同センターは、本県の高い登録者数は放射線による健康不安や環境意識の高まりなどが要因とみている。</p>	<p>エコチル調査は子どもが十三歳になるまで、化学物質や放射線による放射性物質などによる放射線物質などの環境要因が成長・発達にどう影響するかを追跡する大規模な疫学調査。同センターは、本県の高い登録者数は放射線による健康不安や環境意識の高まりなどが要因とみている。</p>

2)参加者増加のための活動

後述するように(13ページ～)様々な媒体を活用して、広報活動を実施したが、特に妊婦さんと直接接する機会のある医療機関及び市町村に対し、格別の協力をお願いした。

① 医療機関及び市町村に

- ・毎月、参加者数の推移や全国のエコチル調査の動向、当センターの活動状況等をお知らせするために、活動報告書を送付した。
- ・エコチル調査にかかるポスター等の掲示や配布をお願いした。

② 医療機関に

- ・医師やスタッフからの妊婦さんへの全員声かけをお願いした。
- ・医療機関のスタッフや当センターの常駐RCスタッフによるリクルート状況等についての情報交換会を開催した。
- ・同意率の低い医療機関に、リクルート方法等について説明した。

③ 市町村に

- ・医療機関が行なうリクルートに同意していただきやすくなるよう、母子健康手帳を交付する際に積極的に声かけを行なうようお願いした。
- ・エコチル調査やキャラクターネーミングについて、広報誌への掲載を依頼した。

なお、調査対象が全県に拡大した平成24年10月から26年3月までの1年6ヵ月間の出生数に対するカバー率は全県で49.4%となっており、県内で出産された「妊婦さんのほぼ2人に1人」が、この調査に参加しているという高い関心と期待が表れている。

カバー率(平成24年10月～26年3月)

保健所管内別	出生数(人)	リクルート数(人)	カバー率(%)
福島県県北	5,078	3,260	64.2
〃 県中	2,177	1,224	56.2
〃 県南	1,767	836	47.3
〃 会津	2,665	1,268	45.6
〃 南会津	230	127	55.2
〃 相双	1,938	363	18.7
郡山市	3,923	1,742	44.4
いわき市	3,699	1,786	48.3
計	21,477	10,612	49.4

* 「出生数(人)」: 福島県人口統計による

- * 平成23年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故後、南相馬市及び双葉郡の医療機関ではリクルートが中断しており、この地域を除いた県全体のカバー率は49.8%となる。

(2)フォローアップ活動

1)質問票等の回収状況

妊娠初期から中期、出産、生後1ヵ月、6ヵ月、1歳、1.5歳、2歳、2.5歳までの9種類の調査を実施した。

このうち、医療機関で受診している「生後1ヵ月」までの質問票等の回収は、医療機関が積極的に対応していただいている。

その後については、郵送による回収となるが、年齢経過とともに回収率が少しずつ低下する傾向となっているものの、なお9割近い回収率を維持している。

2)回収率向上のための対応

本調査に参加し続けていただくために、ていねいな対応に心がけ、回収率の向上に努めた。

- ① 妊娠初期～生後1ヵ月
 - ・医療機関や当センターにおいて、回収状況などの進捗管理を実施した。
- ② 生後6ヵ月～2.5歳
 - ・当センターにおいて、回収状況の確認、質問票への記入漏れをチェックした。
 - ・未回収者に対し、質問票発送から1ヵ月経過後メールにて督促した。
 - ・なお回収できない場合は、発送から2ヵ月後に2回目の督促としてハガキを送付。その際、はがきの余白に体調を気遣う一文を入れた。
 - ・これらの過程のなかで、相談事等があった場合は電話やメールでていねいに対応した。
- ③ 参加者への直接PR
 - 参加者向けのふれあい会やコンサートを開催するとともに、エコチル新聞を発行した。

質問票の回収状況(平成26年3月31日現在)

NO	質問票	発送数(人)	回収数(人)	回収率(%)
1	6ヵ月児	6,385	5,822	91.2
2	1歳児	3,160	2,687	85.0
3	1.5歳児	1,713	1,522	88.8
4	2歳児	959	843	87.9

(3)地域運営協議会開催

1)開催目的

エコチル調査の円滑な遂行を図るために、行政・医療機関等の委員184人に対し調査実績や今後の調査に関する情報発信、普及啓発を行なうとともに、情報交流の推進を図った。

2)開催状況

平成25年度は、県及び地域の運営協議会を計5回開催した。

NO	協議会名称	開催日	開催地	出席者数(人)
1	福島県地域運営協議会	7月10日(水)	福島市	35
2	県北・相双地域運営協議会	11月27日(木)	福島市	42
3	県中・県南地域運営協議会	10月28日(月)	郡山市	48
4	会津地域運営協議会	11月6日(水)	会津若松市	39
5	いわき地域運営協議会	11月29日(金)	いわき市	25

3)内容

- ・各協議会において、環境省・コアセンター・メディカルサポートセンターの責任者から調査にかかる情報や意見をいただいた。
- ・各地域運営協議会において、他のユニットセンターの方々から活動状況の紹介とともに、調査推進のための貴重なご意見を紹介していただいた。(北海道UC、富山UC、高知UC、福岡UC、南九州・沖縄UC)
- ・本県のリクルート実績等の活動状況を報告した。
- ・4つの各地域運営協議会においては、26年度から始まる詳細調査について、メディカルサポートセンターからその意義やパイロット事業について説明があり、これに対し委員の皆さんから様々な意見・要望が出された。

福島県地域運営協議会(7月10日)



(4)市町村訪問

・平成25年7～8月

調査開始時に対象地域であったものの、23年3月の原発事故により避難した南相馬市及び双葉郡の8町村を、県内各地にある仮役場などに訪問し、子どもの生活環境などを聴取するとともに、調査の推進等を依頼した。

原発事故後に双方とも情報交換する機会がほとんどなかったことから、避難した先の医療機関で出産した妊婦さんが何人も調査に参加している実態をお知らせし、また母子健康手帳交付窓口での妊婦さんへの声かけを要請した。

(5)医療機関訪問

1)平成25年12月

リクルート期限が26年3月末に迫ってきたことから、改めてカバー率向上及びリクルート数増加の協力依頼をするため、県内42の協力医療機関を直接訪問した。リクルート数は、最終的には目標の15,900人には達しなかったものの、各協力医療機関においては最後の数ヶ月間さらなるリクルートに尽力していただいた。

2)平成26年3月

リクルート終了の周知及び最後の参加者への声かけを要請するため、拡大地域を中心に協力医療機関を直接訪問した。

3)平成26年2～3月

平成27年度から始まる詳細調査(医学的検査、精神神経発達検査)の準備のため、県内各地域の小児科のある基幹医療機関7病院を訪問し、詳細調査の概要を説明するとともに、実施の可能性の有無や実施に際しての課題等を聴取した。

(6)広報活動

1)イベント開催

県民の皆さんを対象に県内各地で「エコチルコンサート」を開催し、エコチル調査への理解を求めるとともに、妊婦さんの調査への参加を訴えた。

NO	開催日	開催地	参加者数(人)
1	6月15日(土)	会津若松市	約200
2	7月13日(土)	いわき市	約400
3	11月10日(日)	郡山市	約300
4	11月16日(土)	福島市	約350

エコチルコンサート(7月13日 いわき市)



2)ふれあい会開催

県北地域において、子どもの各年齢に合わせた母子のふれあい会や育児相談会を行なった。

- ① 6カ月児対象 ベビーマッサージや育児の話などについて、3回実施(4月17日、8月28日、12月18日)し、合計168組の親子が参加した。
- ② 1.5歳児対象 ふれあい遊びや食育の話などについて、2回実施(6月12日、9月25日)し、合計37組の親子が参加した。

1.5歳児対象のふれあい会(9月25日 福島市)



3)キャラクターネーミング：『こぼちる』ちゃん誕生

調査の開始に合わせ、福島ユニットセンターのキャラクターが子孫繁栄・子どもが健康に育つようにとの願いをこめて、会津地方に古くから伝わる縁起物の起き上がり小法師をモチーフに作られた。しかし、名前が付けられてなかったため、皆さんに親近感をもってもらえるよう本年度ネーミングコンテストを実施し、『こぼちる』ちゃんとそのママ・パパが誕生した。

11月10日に郡山市で開催したエコチルコンサートの会場で、『こぼちる』誕生の発表と命名者への表彰式を行なった。

- ① 公募期間 8月20日～10月11日
- ② 応募総数 県内外から1,095作品
- ③ 選考 関係機関のアンケートなど三次の選考会を経て決定
- ④ 命名者 会津美里町の前田友美さん(1児の母、エコチル調査参加者)
他に、優秀賞として2名を選考

愛称は「こぼちる」

「エコチルふくしま」イメキャラ

名付け親・原田さん(美里)表彰

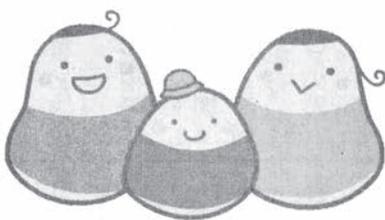
本県の子どもたちの成長と環境を見守るプロジェクト「エコチルふくしま」イメージキャラクターターの子ど



表彰状を贈られる原田さん(美里)

もの愛称が「こぼちる」に決まった。10日、郡山市で開かれた「エコチルコンサートinこおりやま」で発表された。ネーミングコンテストで会津美里町の原田友美さんが最優秀賞に選ばれた。

コンテストには、全国か



愛称が決まった「こぼちる」(中央)と「こぼちるパパ」(左)、「こぼちるママ」(右)

ら1095点の応募があった。原田さんは、キャラクターの「起き上がり小法師」と、事業名の「エコチル」を組み合わせて愛称を名付けた。

表彰式は同コンサートの席上行われ、橋本浩一エコチル調査福島ユニットセンター長が原田さんに表彰状を手渡した。

優秀賞は会津若松市の結城千春さん、木村陽子さんが受賞した。

コンサート 親子魅了

「エコチルコンサートinこおりやま」は10日、郡山市民文化センターで開かれ、親子らが歌やロープパフォーマンスを楽しんだ。約400人が来場。橋本浩一エコチル調査福島ユニットセンター長がエコチル調査の概要や体制などを説明し、「一人で悩まず、周囲を巻き込んで子育てを楽しみましょう」と話した。

4) マスコミ等による広報

エコチル調査活動等を新聞等で紹介される機会を作ったほか、ラジオ・新聞等で下記のCMを提供するなど、積極的な広報を実施した。

- ① エフエム福島で、子供向け番組「よ・み・き・か・せ」放送(毎週月～木曜日)
- ② ラジオ福島で、各月計10回、スポットCM放送
- ③ 福島民報新聞及び福島民友新聞で、毎月1回CM記事掲載

福島民友新聞 週間テレビプログラム「Touch」掲載



- ④ ・地域情報誌等でリビング福島及びリビング郡山に隔月1回CM記事を計12回、またハートこおりやま版及びハートいわき版で計10回CM記事を掲載した。
- ・またリビング誌の「エコチル通信」コーナーに、子育て等に関する橋本センター長(小児科医)や当センターの産婦人科医師・助産婦等の寄稿を計6回掲載(別添「資料2」参照)

- ⑤ 地域情報誌「Winwin」に計7回、広告を掲載
- ⑥ エフエム福島で、「親子で楽しむ、よ・み・き・か・せ」8月31日放送(8月18日、白河で絵本のよみきかせ公開録音とイベントを実施)
- ⑦ ラジオ福島で、子育て特別番組「尾木ママと子育てについて考えよう」11月23日放送(教育評論家・尾木直樹氏と小児科医・橋本ユニットセンター長の対談)

- ⑧ ラジオ福島で、3つの番組の中で「エコチル調査について」放送
(平成26年2月計6回、橋本センター長及びRC 2人出演)

5) ニュースレターの発行

10月に参加者約9,500人に対し「ふくしまエコチル新聞」を発行。開設して1年経過した郡山事務所の活動状況やエコチルコンサートなどのイベント情報等を報告した。
(別添「資料3」参照)

6) 協力医療機関及び市町村へ活動報告

毎月、約50の協力医療機関に対し「エコチル★だより」を発行し、医院ごとのリクルート実績やインシデント発生状況等を報告した。またイベント等の情報や今後の予定等について周知を図った。

協力医療機関向け活動報告(エコチル★だより)



エコチル★だより 第6号

トピック
母親同意数がまもなく8000人になります

リクルート進捗状況

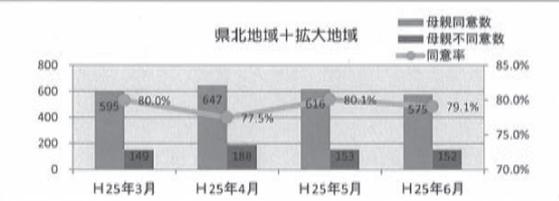
	母親同意数(同意率%)	父親同意数(同意率%)	子ども登録数
6月	418 (78.7)	222 (97.8)	
拡大地域	157 (80.1)	115 (98.3)	
うち貴院			
貴院累計(リクルート開始より)	1,157 (80.9)	948 (96.9)	
福島県累計	7,800 (78.9)	4,282 (97.3)	3,327
全国15ユニット累計	74,139 (78.5)	34,484 (94.2)	49,335

※6月30日までの入力完了済み数値を表示しています。

＜母親リクルート月別推移＞ (平成25年3月～平成26年6月)

	3月			4月			5月			6月		
	同意	不同意	同意率									
拡大地域	425	113	79.0%	500	140	78.1%	451	107	80.8%	418	113	78.7%
県北地域	170	36	82.5%	147	48	75.4%	165	46	78.2%	157	39	80.1%
計	595	149	80.0%	647	188	77.5%	616	153	80.1%	575	152	79.1%

県北地域+拡大地域



母親同意数
母親不同意数
同意率

フォローアップ状況 (平成25年7月1日現在)

調査時期	発送数	回収数	回収率
6ヶ月質問票	2,242	2,034	90.7%
1歳児質問票	1,326	1,200	90.5%
1.5歳児質問票	631	544	86.2%

6月のインシデント報告事例 (9件・福島地区0件・拡大地域9件)

- 生体試料関連
 - 試験管を間違えて使用した T2⇒T1 を使用
 - T1 の採血を2回実施してしまった
- 同意書関連
 - 対象地域外の方をリクルートしてしまった
 - 対象地域外の方をリクルートしてしまい、臍帯血を採取してしまった
 - 生体試料採取の実施日を、同意日の前日にしてしまった
- ID ラベル関連
 - 間違った ID ラベルを生体試料依頼書に貼り提出してしまった (2件)
- その他
 - 生体試料依頼書のユニットセンター用を紛失した
 - 参加者個人フォルダーを紛失した

イベント・会議

★6月12日 県北地区でエコチルふれあい会が開催されました★

1歳半から約2歳の親子3組にお集まりいただき、読み聞かせやふれあい遊びを楽しみました。

★各地区でRC情報交換会が開催されました★
医療機関RCと各地区のユニットセンタースタッフが参加して、約1時間のグループワークを行いました。

6/13 南町
6/16 いわき
6/19 飯山
6/26 兜塚

★7月10日(水) 福島県地域運営協議会が開催されました★
(各地域ごとの地域運営協議会は、秋頃に開催する予定です)

お知らせ 8月28日(水) 県北地区でエコチルふれあい会が開催される予定です。

ご意見・ご要望などございましたら巡回時等の際にお聞かせください

【編集・発行】 福島県立医科大学 エコチル調査福島ユニットセンター
(大学本部事務所) 〒960-1295 福島市光が丘1
TEL 024-547-1449 FAX 024-547-1448
(郡山事務所) 〒963-8024 郡山市朝日3丁目6番4号
レジデンス朝日第2ビル2階
TEL 024-983-4780 FAX 024-983-4751
<http://www.ecochil-fukushima.jp/>

また、7月から毎月県内全ての市町村に対し「エコチル★活動報告」の発行を始め、県内の保健所管内ごとのリクルートの実績やエコチル調査を取り巻く最新の情報などを報告した。また、母子健康手帳交付窓口での「声かけ」についてお願いをした。

市町村向け活動報告(エコチル★ふくしま)

平成26年2月
Vol.8

最新のリクルート状況をお届けします

エコチル★ふくしま活動報告

ごぼちる

平素は、エコチル調査にご協力賜り、厚く御礼申し上げます。
平成26年1月、県内のお母さんの参加者数が「11,800人」、お父さんの参加は「6,700人」、誕生したお子さんも「8,100人」となりました！

リクルート進捗状況

＜エコチル★ふくしま 参加者数(お母さん)の推移＞

＜居住地別参加状況＞ (H26.1.31現在)

	お母さん	お父さん
福島県全体	11,797	6,750
東北保健所	5,275	3,881
関東保健所	1,076	442
東海保健所	746	440
会津保健所	1,142	335
南会津保健所	118	48
相双保健所	342	238
郡山市保健所	1,532	765
いわき市保健所	1,566	601

※平成23年1月末日より東北保健福祉事務所管内の福島市、相双保健福祉事務所管内の南相馬市、双葉郡で調査開始。平成23年6月1日より東北保健事務所管内の伊達市、伊達郡で開始。その後、平成24年10月より福島県内全59市町村で調査開始。但し、南相馬市、双葉郡は東日本大震災以後中断。
※東北保健福祉事務所管内の参加者数が突出しているのは、以上に示したように調査期間が長いため。
※「お父さん」の人数は、全県で8,165人です。(H26.1.31現在)

全国では・・・

	お母さん	お父さん	お子さん
	95,076	44,825	70,257

エコチル調査3周年シンポジウムが開催されました

エコチル調査は、全国で平成23年1月31日に始まり、今年の同日、環境省主催による「3周年記念式典」が東京都内で開催されました。シンポジウムでは、1歳6か月のお子様のお母さん福島市在住・石川優様が参加者を代表して、妊娠中の生活習慣と子どもの発育などについて話をされました。(写真中央)

エコチル調査・その過程で「明らかになったこと」が公表されました

これまで3年間の参加者様からいただいた貴重なデータの集計結果が、環境省より公表されました。
妊婦さんの喫煙や飲酒など生活習慣、育児環境やパートナーの育児協力、授乳や離乳食など子どもの食事について、全国の約9万5千人の母親、約4万5千人の父親からのデータが報告されました。

【出産後6ヶ月】 パートナーは育児休業を取得したか

【出産後1年】 産後時点での母乳の状況

これほど大規模な調査はこれまで例がありませんので、詳しい内容を、環境省のホームページでは是非ご覧いただきたいと思っております。
【エコチル★ふくしまホームページ】
→ [環境省] → [エコチル調査] → [新着情報 26.1.31 及び25.11.15]

福島の子どものための健やかな成長のため、
これからも、エコチル調査をよろしくお願い申し上げます。

【編集・発行】福島県立医科大学 エコチル調査福島ユニットセンター
(福島本部事務所) 〒960-1295 福島市光が丘1
TEL 024-547-1449 FAX 024-547-1448
(郡山事務所) 〒963-8024 郡山市朝日3丁目6番4号
レジデンス朝日第2ビル2階
TEL 024-983-4780 FAX 024-983-4751
(ホームページ) エコチルふくしま

7)市町村広報誌に掲載

エコチル調査の内容や参加者募集に関する情報を13市町村の広報誌に、またキャラクターネーミング募集に関する紹介記事を8市町村で掲載していただいた。

8)市町村及び各種団体主催のイベントに参加

福島市主催の健康フェスタなどにエコチルコーナーを設け、来場者にエコチル調査の周知と妊婦さんの参加を呼びかけた。

- ① 4月 ラジオ福島主催の「さくらまつり」(福島市)
- ② 9月 福島市主催の「健康フェスタ」(福島市)
- ③ 9月 福島県産婦人科医会及び福島県産科婦人科学会主催の「福島のママ・パパを応援する集い」(いわき市、郡山市)
- ④ 11～12月 日本赤十字社福島県支部主催の「赤十字すまいるぱーく」(郡山市、いわき市)

(7)謝礼支払いに、電子マネー導入

調査参加者への謝礼として当初より金券を送付していたが、平成26年3月から母親への謝礼を電子マネーによる支払いに切り替えた。

1)目的

母親参加者約13,000人に今後13年間にわたって年2回、質問票への謝礼として金券での謝礼支払いを行なうことは、人的にも時間的にも大変な労力を要するとともに、簡易書留による郵送は膨大な経費を伴うこととなるので、これらの労力及び経費を削減するとともに、金券の紛失等の人的ミスを解消するため、謝礼の支払いを電子マネーに切り替えることとした。

2)適用範囲

母親参加者を対象とし、謝礼支払いの機会が1回のみのお父様及び銀行振込で支払っている医療機関は、対象外とした。

3)導入時期及び対象者

平成26年3月から実施。前月に同意書や質問票を回収した母親について、1,518人に電子マネーカードを送付し、謝礼をポイントとして付与した。

なお、26年度中には、母親参加者全員にカードの送付を終了する。

電子マネーカード



(8)その他研修等

1)RC代行研修

医療機関、市町村、ユニットセンターの職員に対し、計36回実施し、これまでに認定されたRCは合計590人となった。

2)RC情報交換会

医療機関や市町村スタッフのRC情報交換会を、25年6月に拡大地域4ヵ所で、26年2月に県北・相双地域1ヵ所、合わせて県内5ヵ所で開催した。参加者は、約120人に及び、エコチル調査の動向に関する情報の提供やユニットセンターと医療機関等のRCがそれぞれに抱える課題について意見交換するなど、事業を積極的に推進するうえで、貴重な機会となった。

26年2月に県北・相双地域で行なわれた情報交換会では、リクルートの期限が間もなく終了する時期であったこともあってか、病院スタッフRCから「達成感」という言葉が聞かれ、各医療機関において熱心なリクルート活動が展開されていたことを物語っている。

いわき地域RC情報交換会(6月6日 いわき市)



3)他ユニットセンターとの情報交換会

他ユニットセンターが地域運営協議会にご出席いただいた際、別途時間を設けて当センターのRCを中心に調査の進め方や課題、来年度から始まる詳細調査等について、5ユニットセンターと5回情報交換会を行なった。

また、参加者への謝礼支払いを電子マネーにいち早く切り替えた南九州・沖縄ユニットセンターから貴重な意見をいただいた。

NO	開催日	場所	参加ユニットセンター	主な内容
1	7月10日(水)	福島市内	北海道、福岡	同意率向上方策、フォローアップ活動
2	10月28日(月)	郡山事務所	南九州・沖縄	調査の進捗状況、詳細調査
3	11月6日(水)	郡山事務所	富山	調査の進捗状況、広報活動
4	11月27日(水)	福島市内	南九州・沖縄	詳細調査、電子マネー導入
5	11月29日(金)	郡山事務所	高知	フォローアップ活動、電子マネー導入

高知ユニットセンターとの情報交換会(11月29日 郡山事務所)



4) 職員研修

県内各地で業務を推進しているRC及び事務職全職員を対象に、隔月で計4回の研修会を行なった。4回とも日曜日に実施したが、参加職員は毎回8割を超えた。

研修会では、外部講師による接客ビジネスマナーやコミュニケーションの大切さについて講演と実践があり、また職員同士で業務推進上の課題等についてグループワークを行なった。

NO	開催日	研修テーマ	講師等
1	5月12日(日)	仕事の要！コミュニケーション	PHP研究所 旗持 玲子氏
		追加調査について	福島県立医科大学 経塚 標氏
2	7月21日(日)	ここがポイント！ビジネスマナー	PHP研究所 旗持 玲子氏
3	9月1日(日)	今こそ、チーム力アップ	PHP研究所 旗持 玲子氏
4	12月8日(日)	放射能影響を伝えることの難しさ	放射線医学総合研究所 島田 義也氏

5) 詳細調査・医学的検査のパイロット調査視察

詳細調査の医学的検査が平成27年度から実施される予定である。このため平成26年1月にセンター長やRC・事務職など4人が、医学的検査のパイロット調査を実施している自治医大において、その実施状況を視察した。調査の方法などについて具体的にイメージすることができた。

4. 実施体制

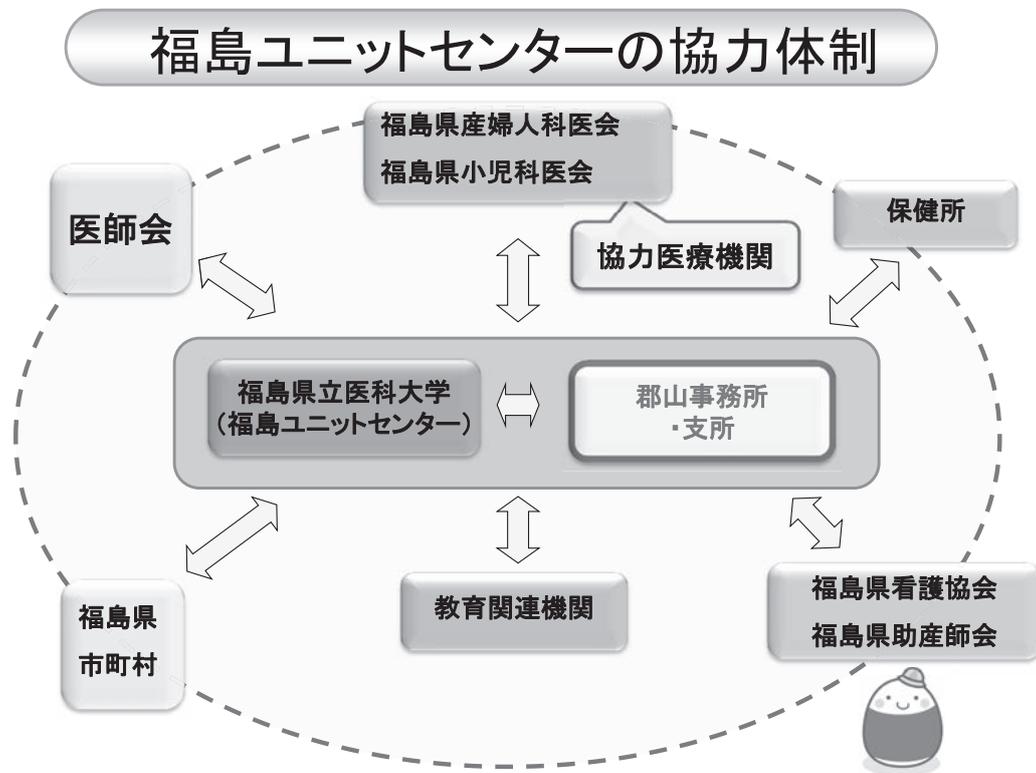
(1) 協力体制

1) 関係機関

福島県内の行政・医療機関など調査に関係するさまざまな機関にご協力をいただき、参加者のリクルートに努めた。

調査事業を始めて3年余、福島県の関係部署や保健所、全ての市町村、医師会や産婦人科医会、小児科医会、看護協会、助産師会、並びに教育機関などの関係機関に地域運営協議会のメンバーになっていただき、さまざまな場面で事業推進にご理解とご支援をいただいた。

福島ユニットセンターの協力体制



2) 協力医療機関

平成23年1月にリクルートを開始し県北・相双地域の、そして24年10月からは産婦人科を抱える県内医療機関の8割を超す医療機関において、母親のリクルート及び検体回収にご協力いただいた。登録いただいた協力医療機関は、一覧表のとおり。(別添「資料4」参照)

(2)ユニットセンター実施体制

1)平成23年1月

事業開始時は、県北・相双地域の10市町村を対象としていたが、医科大学内において事務3人・RC 2人の計5人で担当していた。

2)平成24年4月

事業開始直後の東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で双葉郡内はリクルートが中断したが、参加者等の行方等の確認や県北地域の4市町への調査対象地域拡大等により、スタッフを増加し、事務8人・RC 6人の計14人が調査に当たった。

3)平成24年10月～

平成24年10月に調査対象地域を全県に拡大したことから、新たに郡山市内に事務所を設置し、またその支所を白河市内・会津若松市内・いわき市内に置いた。郡山事務所の職員数は開所後急増し、従来の福島本部事務所と併せて平成25年度は職員約60人、派遣職員10人余の大所帯で事業を推進した。(別添「資料5」参照)

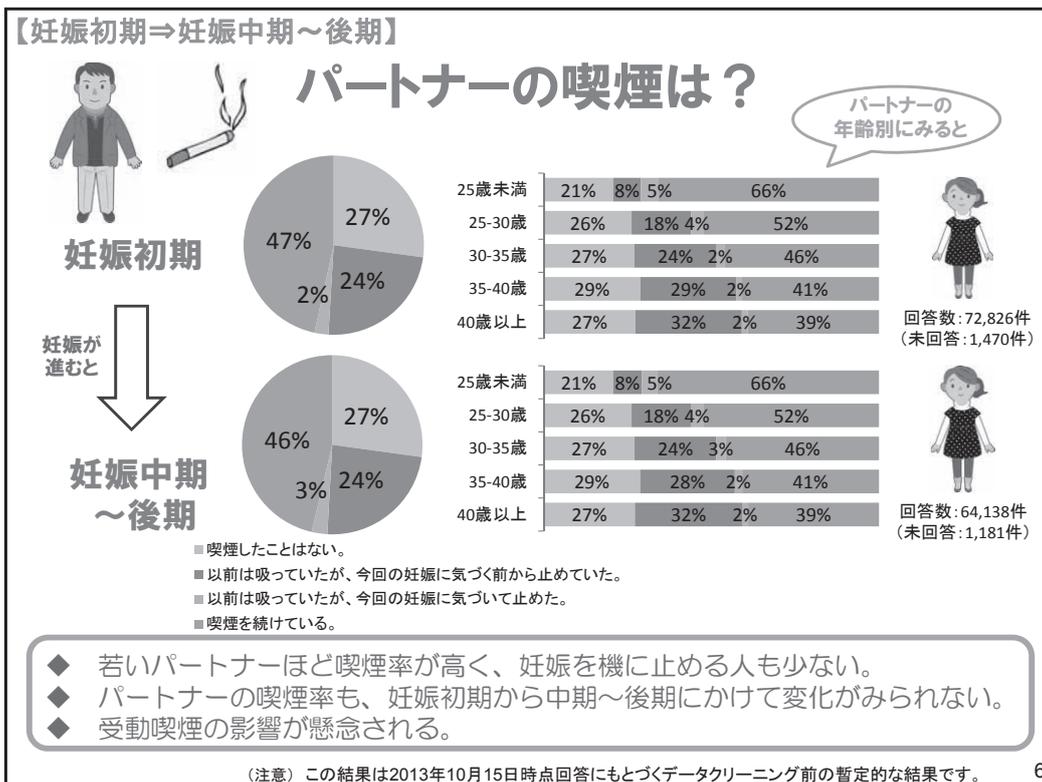
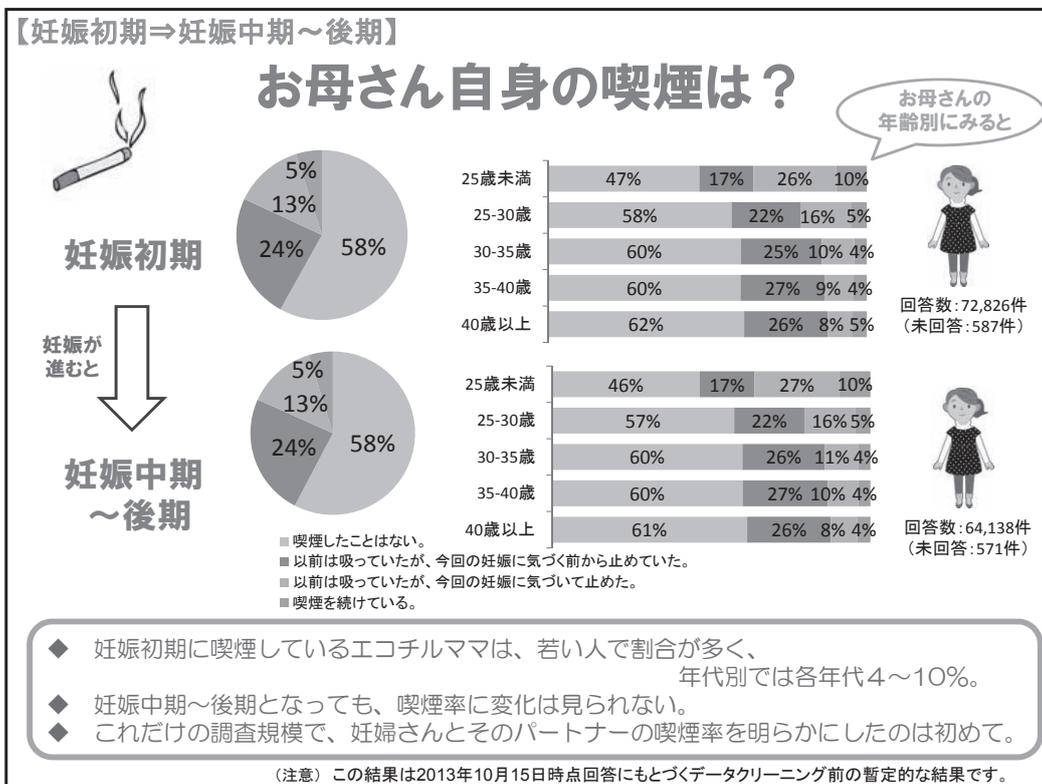
◎ 資 料

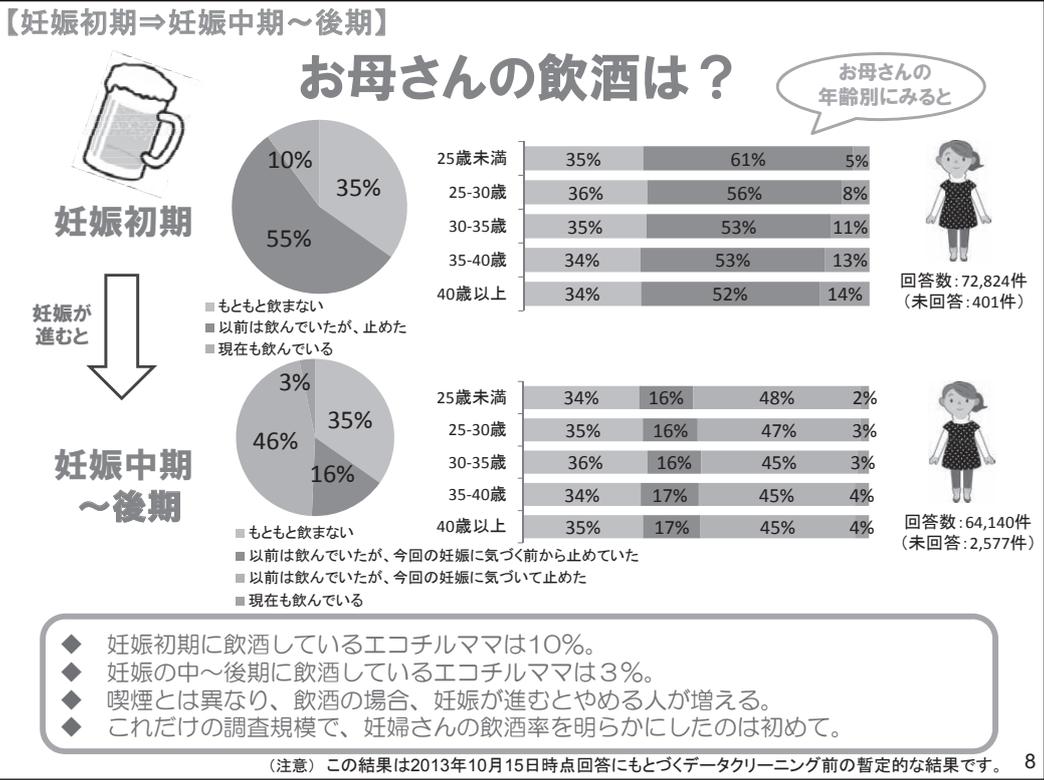
1. 全国集計データ分析結果

平成26年1月31日、環境省はそれまでの約8万人の参加者から得た調査結果を発表しました。

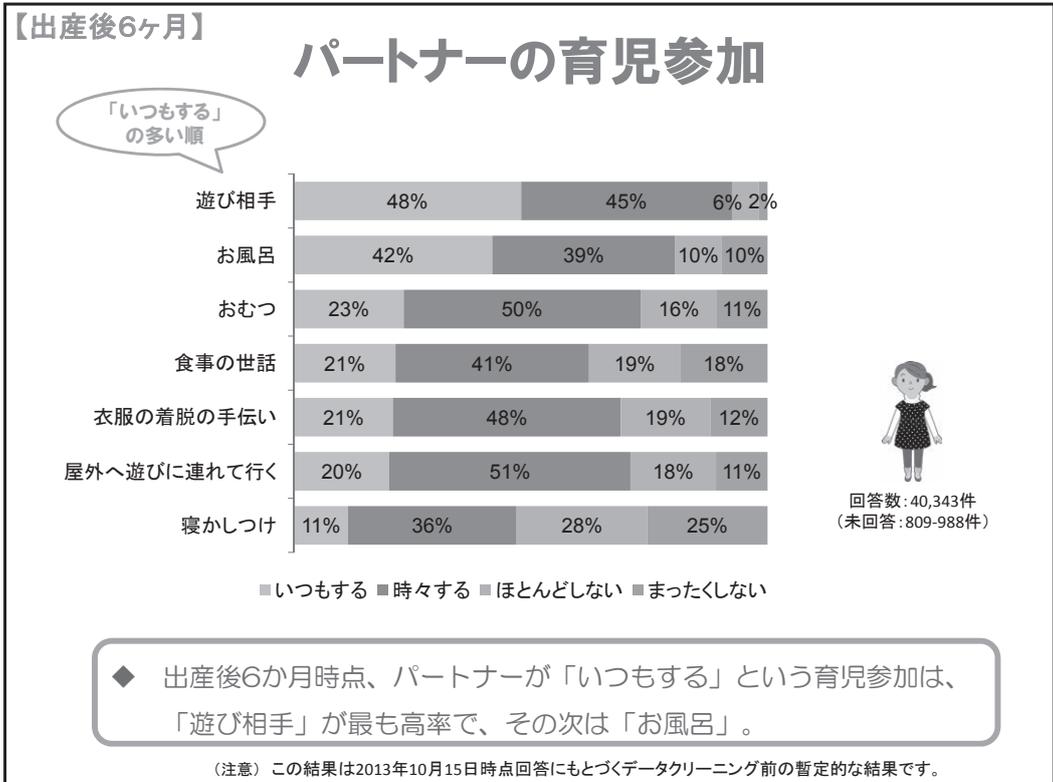
その主なものを掲載します。

【妊娠初期～後期】

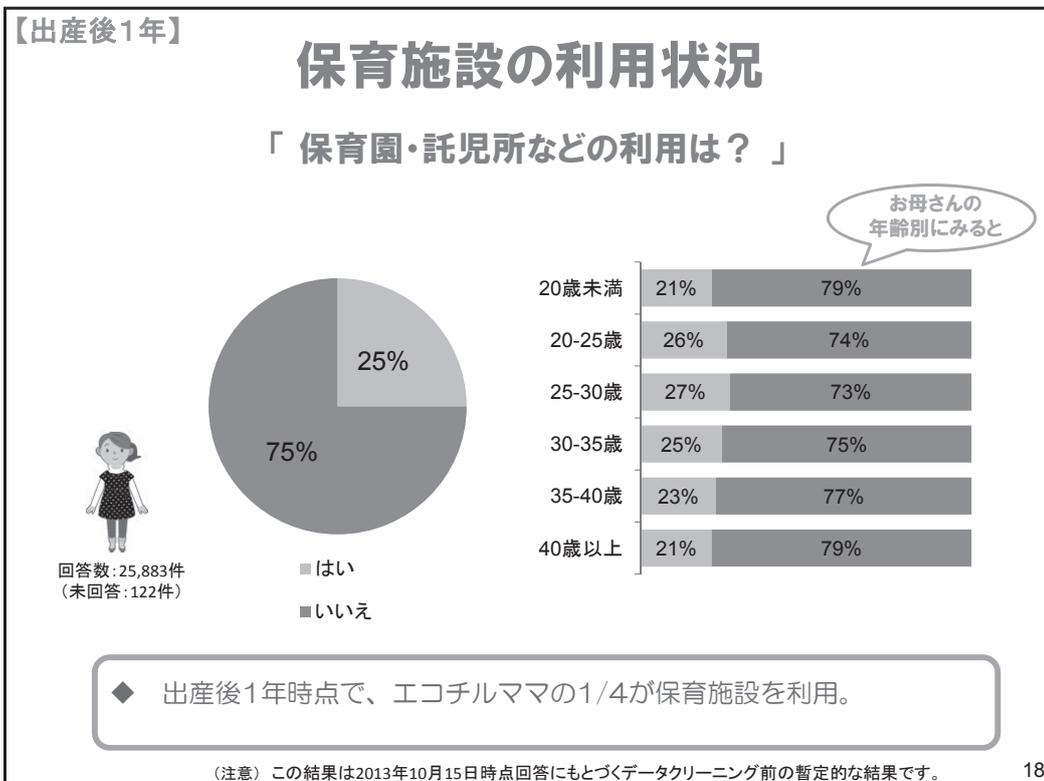
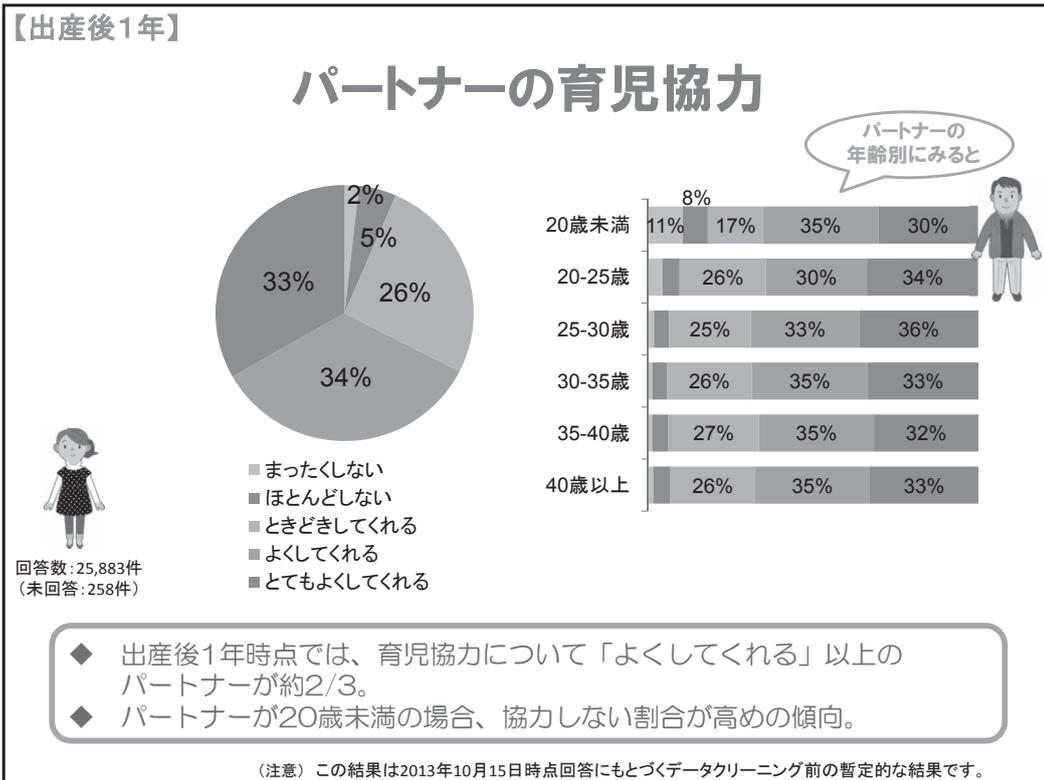




【出産後6ヵ月】



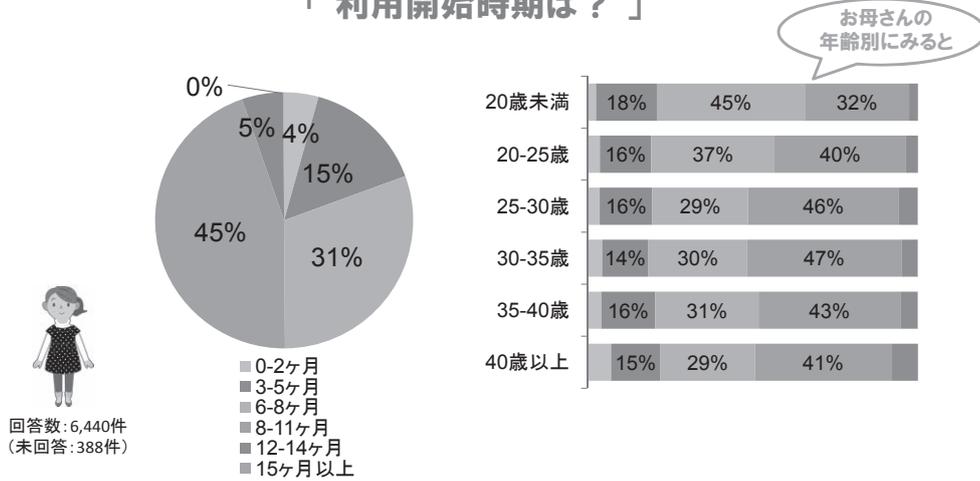
【出産後1年】



【出産後1年】

保育施設の利用状況

「利用開始時期は？」



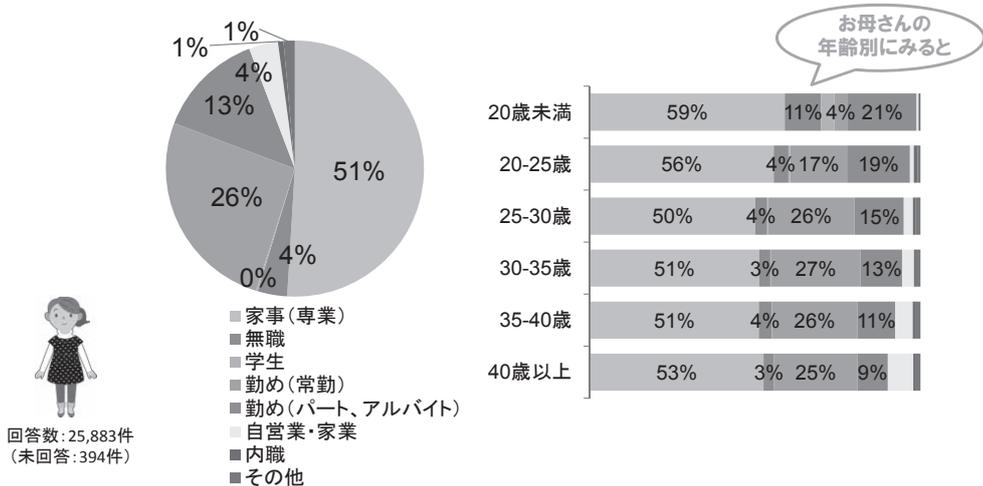
◆ 保育施設の利用開始時期は、「8-11ヶ月」の割合が最も高い。

(注意) この結果は2013年10月15日時点回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

19

【出産後1年】

現在のお母さんの仕事は？



◆ 出産後1年時点で、4割以上の人々が就労している。

(注意) この結果は2013年10月15日時点回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

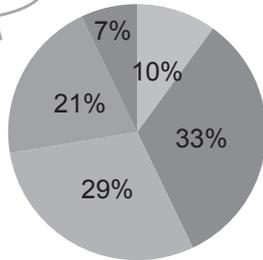
【出産後1年】

テレビやDVDなどを何時間みせる？

1日にみせる時間

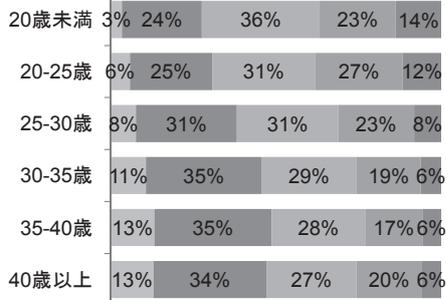


回答数: 25,883件
(未回答: 221件)



- 見せていない
- 1時間未満
- 1~2時間未満
- 2~4時間未満
- 4時間以上

お母さんの年齢別にみると



◆ 若いお母さんほど、お子さんに、テレビやDVDなどを長くみせている傾向。

(注意) この結果は2013年10月15日時点回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

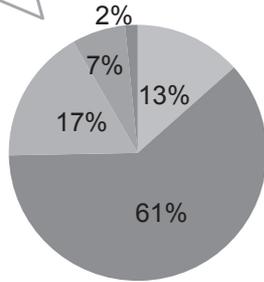
【出産後1年】

子どものそばでPCや携帯を何時間使う？

子どものそばで1日に使う時間

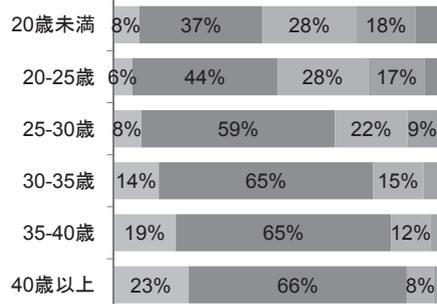


回答数: 25,883件
(未回答: 121件)



- していない
- 1時間未満
- 1~2時間未満
- 2~4時間未満
- 4時間以上

お母さんの年齢別にみると

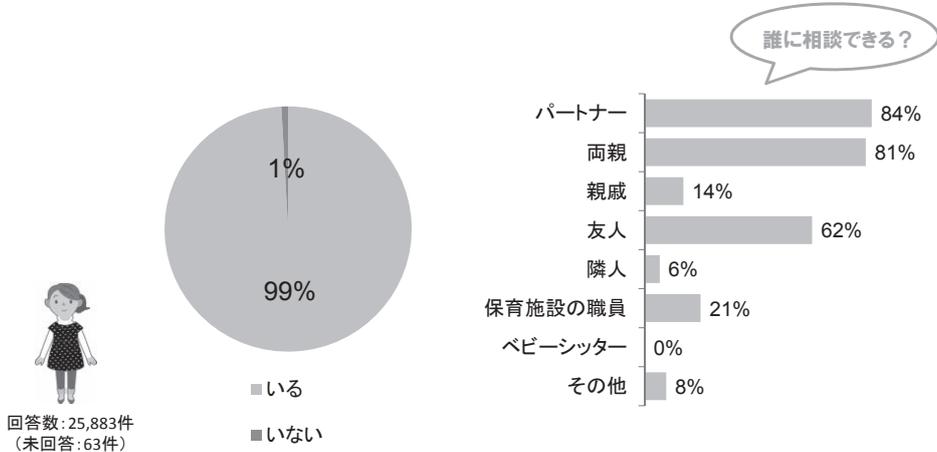


◆ 若いお母さんほど、お子さんのそばで、PCや携帯を使っている時間が長い傾向。

(注意) この結果は2013年10月15日時点回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

【出産後1年】

子育てについて相談できる人はいる？



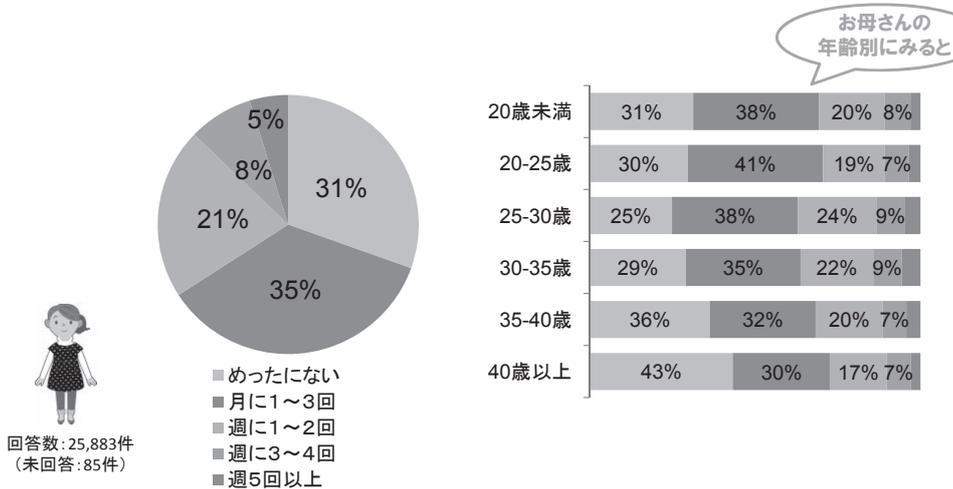
- ◆ 相談相手も、パートナーと両親の割合が高い。
- ◆ 友人と相談できている人は約6割。

(注意) この結果は2013年10月15日時点回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

30

【出産後1年】

保護者同士の交流機会は？



- ◆ 約7割のエコチルママは、月1回以上、保護者同士の交流機会がある。
- ◆ 交流の機会がめったにないというママが約3割。

(注意) この結果は2013年10月15日時点回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

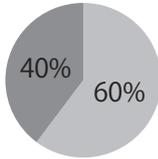
31

【出産後1年】

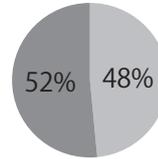
出産後1年となると……



「母乳」



「粉ミルク」



お母さんの年齢別にみると



回答数: 25,883件
(未回答: 124-189件)

年齢	飲む	飲まない	飲む	飲まない
20歳未満	37%	63%	62%	38%
20-25歳	46%	54%	54%	46%
25-30歳	60%	40%	46%	54%
30-35歳	63%	37%	46%	54%
35-40歳	64%	36%	50%	50%
40歳以上	60%	40%	56%	44%

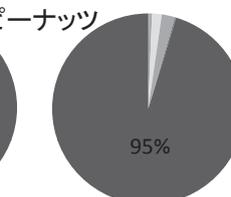
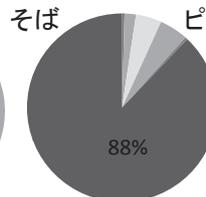
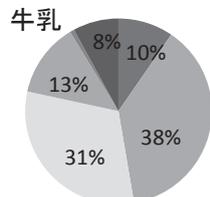
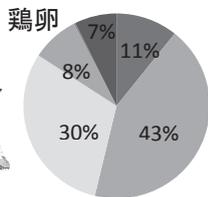
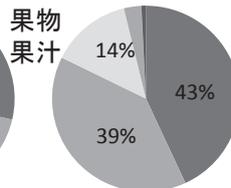
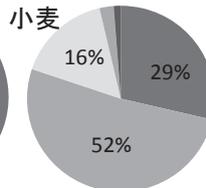
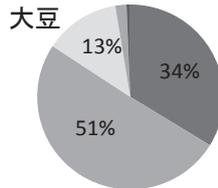
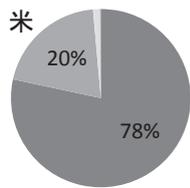
- ◆ 出産後1年時点、母乳を飲んでいるお子さんは60%。
- ◆ 人工栄養（粉ミルク）は48%。

(注意) この結果は2013年10月15日時点回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

【出産後1年】

1歳時点での離乳食の状況

「以下の食べ物とこれらを含む食品(原材料の一部に含むもの)を食べはじめた時期」



回答数: 25,883件
(未回答: 106-540件)

■ 6か月より以前 ■ 7~8か月 ■ 9~10か月 ■ 11~12か月 ■ 13か月以降 ■ まだ食べていない

- ◆ 一般的にアレルギーになるとされる食品について、食べはじめが遅い、あるいは、まだ食べさせていないという傾向がみられる。

(注意) この結果は2013年10月15日時点回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

2. リビング福島・郡山「エコチル通信」掲載



今回は、エコチル調査福島ユニットセンターの助産師さんに、妊娠中や授乳中のカルシウムの摂取について伺いました（以下は助産師さんの話）。

「皆さん、きちんとカルシウムを摂取できていますか？ 女性のカルシウム摂取量の目安は、妊娠していない女性で1日600mg、妊娠中はその1.5倍の900mg、産後授乳中は1100mg」と言われています。

赤ちゃんの成長にカルシウムは不可欠

胎内で発育する胎児のために十分に摂取しなければならぬ栄養素は、カルシウム、鉄分、たんぱく質、食物繊維などです。特に胎児の骨格や神経組織を形成するためには、赤ちゃんのカルシウムが必要になりませんが、カルシウム不足は日本人が最も不足しがちな栄養素なのです。

妊娠中、普段から十分なカルシウムが摂取されないと、胎児に必要なカルシウムは母体の骨から補充されます。そのため、カルシウム不足は胎児の発育に影響するばかりではなく、将来自分が高齢になった時、骨粗しょう症の原因にもなりかねません。また、赤ちゃんは母乳を通して成長発育で必要な栄養素をすべてとるので、授乳中もバランスのとれた食事は非常に大切になります。

子どもの健康はママの食事から

必要なカルシウムを摂取するために、何をどう取ればいいかは、何をどう取ればいいかは、このように取ればよいので

カルシウムを多く含む食品

- 牛乳（コップ1杯 200cc）…200mg
- プロステーズ（1切れ 25g）…170mg
- プレーンヨーグルト（半分）…115mg
- 丸干しいわし（1匹）…350mg
- わかさぎ（4匹）…375mg
- ひじき（10g）…140mg
- 木綿豆腐（2分の1丁）…180mg

「O」なら牛乳コップ1杯200mg、丸干しいわし1匹350mg、小松菜5分の1束175mgで計705mgになります。妊娠・授乳中の女性はこれより多く食べないと必要な量を摂れないことになります。

健康はママの食事からです。

■エコチル調査参加状況

参加者数 **6141人**

出生数 **2854人**

※福島県内、4月18日現在の状況。

カルシウムは牛乳やチーズなどの乳製品ほもちろん、納豆・豆腐・豆乳などの大豆製品のほか、丸干しいわしやひじきなどに多く含まれています。ビタミンD・Cも豊富です。

妊娠中授乳中の皆さん！ 胎児の発育や赤ちゃんの成長を促し、骨量をしっかり維持するためにも、今から十分なカルシウムをきちんと摂取していきましょう。子どもの健康はママの食事からです。

■エコチル調査に関する問い合わせは…

エコチル調査コールセンター
0120(327)735
 午前9時～午後5時受け付け。土・日曜日、祝日を除く

エコチル福島

平成25年4月27日号



今回は、エコチル調査福島ユニットセンター副センター長・佐藤哲志特命教授に、「水」について話を伺いました。以下は佐藤特命教授の話。

軟水と硬水の違い

「皆さんは軟らかい水と硬い水があることをご存じですか？ 液体の水と水ではないですよ。水質を表す指標の一つに「硬度」というものがあります。硬度とは、水に含まれるカルシウムとマグネシウムの量を表したものです。硬度が低い水1リットルあたり100mg、または100ppm未満を軟水（なんすい）、高い水1リットルあたり300ppm以上を硬水（こうすい）としています。

一般的に、軟水は口当たりが軽くて癖がなく、硬水は人によって好き嫌いが分かれるといわれています。

日本の水はほとんどが軟水。それに対し、ヨーロッパや北米では硬水が多いようです。これは、大地を形成する地殻物質の違いや雨が降ってから地下に浸透している時間（海に流れ出すまでの時間）の違いがあります。日本は国土狭いので、大陸に比べてこの時間が短いのです。

暑い季節は十分な水分補給を

暑い季節になると熱中症が心配になってきます。熱中症は真夏だけでなく、梅雨の合間に突如気温が上がった日や、梅雨明けの蒸し暑い日などにもよく起こります。熱中症対策の一つとして水分の補給が大事ですが、それは赤ちゃんも同じです。乳幼児・小児は汗腺をはじめとした体温調整機能がまだ完全に発達していないため、大人よりも熱中症のリスクが高く、十分な注意が必要です。

■エコチル調査参加状況

参加者数 **7496人**

出生数 **3645人**

※福島県内、6月18日現在の状況。

「おいしい水」の条件を示したことがありますが、その条件の一つに「硬度」があり、その目安の値は1リットルあたり10～100ppm。つまり、軟水が「おいしい水」といことになりませぬ。

また、軟水では石鹸（せっけん）の泡立ちが良いのに対し、硬水では泡立ちがよくなりませぬ。

暑い季節は十分な水分補給を

暑い季節になると熱中症が心配になってきます。熱中症は真夏だけでなく、梅雨の合間に突如気温が上がった日や、梅雨明けの蒸し暑い日などにもよく起こります。熱中症対策の一つとして水分の補給が大事ですが、それは赤ちゃんも同じです。乳幼児・小児は汗腺をはじめとした体温調整機能がまだ完全に発達していないため、大人よりも熱中症のリスクが高く、十分な注意が必要です。

■エコチル調査参加状況

参加者数 **7496人**

出生数 **3645人**

※福島県内、6月18日現在の状況。

環境省のホームページ「クール」では、地域ごとにその日の暑さ指数の手測値や熱中症の注意レベル、熱中症予防情報メールなどの情報を提供しています。外に出かける前にチェックしてみるのがとても役立つかもしれません。

■エコチル調査に関する問い合わせは…

エコチル調査コールセンター
0120(327)735
 午前9時～午後5時受け付け。土・日曜日、祝日を除く

エコチル福島

平成25年6月29日号



今回は、エコチル調査福島ユニットセンターの産婦人科医、経塚標先生に「予防医学」について話を伺いました。以下は経塚先生の話。

予防医学の考え方

「医学は「治療医学」と「予防医学」に分けられます。「治療医学」とはその名の通り病気を治すことをいい、皆さんにもなじみが深いと思います。一方「予防医学」とは病気になりにくい体をつくり、健康を保つという考えです。

この予防医学は第一期発症、第二期予防、第三期発症、第三期予防、第四期発症の3段階に分けられます。第一期予防はインフルエンザなどの予防接種のことをいい、第二期予防は職場健診や学

校健診など、第三期予防は、リハビリなどのことをいいます。妊婦健診は母子ともに健やかに出産を迎えるために、病気を早く発見できるように尿検査・血圧測定・採血・超音波検査等が行われています。

「治療医学」としてよりも「予防医学」の考え方に強く基づいており、3段階の中では第二期予防といえますね。

バストワールの功績

皆さんは「予防医学」の発展に大きく影響を与えたバストワール1822～1895」という人物を知っていますか？

19世紀のフランス。彼はビールやワインの腐敗・発酵の研究から微生物の研究に取り組み、病原体の原因に「細菌」が関与していることを突き止

■エコチル調査参加状況

参加者数 **8647人**
出生数 **4815人**

※福島県内、8月20日現在の状況。

エコチル調査も 予防医学に役立つ

エコチル調査は妊婦健診を通して、多くの妊婦さんの協力があって進められている日本では前例のない大プロジェクトです。県内の各協力医療機関

で平成26年3月末日まで参加への呼びかけが行われています。エコチル調査は今後の「予防医学」の発展と、未来の子どものための健やかな成長に大きく役立つといえます。

1855年、彼のもとに14カ所も狂犬にかまれたヌメルという少年が連れてこられました。ワクチンが投与されると少年は見事に快復したといわれています。フランス政府は彼の一連の功績をたたえ、1888年彼の名にちなんで「バストワール研究所」を設立しました。

■エコチル調査に関する問い合わせは…
エコチル調査コールセンター
☎0120(327)735
午前9時～午後5時受け付け。土・日曜日、祝日を除く

エコチル福島

平成25年8月31日号



今回は、エコチル調査福島ユニットセンターの産婦人科医、経塚標先生に「卒乳」について話を伺いました。以下は経塚先生の話。

卒乳の時期について

ママたちから「母乳はいままで飲ませていいのですか」とよく聞かれます。少し前までは「断乳」といって、1歳くらいに卒乳を促すのが普通でした。今は「卒乳」といって、子どもが自然におっぱいを卒業するのを待つという考え方が主流になってきました。卒乳の時期はいろいろ考え方がありますが、一般的には1歳半～3歳未満が理想的だといわれています。

1歳～1歳半頃の授乳は、お子さんの心の成長と親子の絆にとっても重要な役割を果たす時期です。歩き始め、脳がたくりサチコーディネーター統括責任者、半澤ハルも大きな時期だから、夜に授乳でのスキップは、おのれのお茶となり。

卒乳の準備

歯医者さんによる歯並びに影響が出てくる可能性があるため、3歳までには授乳を卒業しておくと良いそうです。

お子さんとママの卒乳前の確認事項として、①歩けるようになること、②食事が3回摂れ、取り分け栄養が十分摂れていること、③おっぱいを下ろすことがないこと、④お子さんもママも心身ともに健康であることなどが挙げられます。2～3日の間は口さみしくなると、おっぱいを欲しがったり泣かれること、おっぱいをやめること、おっぱいをやめること、牛乳などの水分を「コップ」で飲ませてあげます。

■エコチル調査参加状況

参加者数 **9685人**
出生数 **5902人**

※福島県内、10月11日現在の状況。

しっかりと「抱っこ」をしながら卒乳を準備していくと良いです。

卒乳の当日は、朝起きたらしっかりと「おっぱい」をあげて、朝ご飯を一緒に食べます。その時には、「えらいね、しっかりと飲んだね」と褒めたり、おっぱいもママも心身ともに健康であることなどが挙げられます。2～3日の間は口さみしくなると、おっぱいを欲しがったり泣かれること、おっぱいをやめること、牛乳などの水分を「コップ」で飲ませてあげます。

■エコチル調査に関する問い合わせは…
エコチル調査コールセンター
☎0120(327)735
午前9時～午後5時受け付け。土・日曜日、祝日を除く

エコチル福島

平成25年10月26日号

今回は、エコチル調査福島ユニットセンターの産婦人科医、経塚標先生に「妊婦と薬」について話を伺いました。以下は経塚先生の話。

妊婦の薬の服用

12月に入ってから夜間の気温差が大きくなり、空気が乾燥するようになりました。インフルエンザも始めた風邪が大流行する時期の到来です。今回は妊婦さんが不安に思っていることが多い薬の服用についてお話します。

通常、薬は安全であること、副作用を軽減するための臨床試験「ヒト」を対象に行われるなど、さまざまな試験をクリアして市場に出回っています。ですが、「この薬が胎児に影響ないかを調べてみたいので飲んでみてくださいますか」と言われることが、日本では倫理上不可

能。薬と胎児異常の因果関係を臨床試験で調べることはできません。2005年に厚生労働省の事業として、国立成育医療研究センターを中心とした「妊婦と薬情報センター」が創設されました。この事業により、妊婦中においてもインフルエンザワクチンなどを安心して接種できることが分りました。さらに引き続き妊婦中の薬の安全性を正確に評価されること、今後期待されています。

エコチル調査は、薬を含めた環境物質が将来の子どもの体に与える影響を調べることを目的としています。調査の規模は世界に類を見ない大きなものになっており、さまざまな発見をもたらすことと見られています。また、薬の処方はその国の事情により変わっていきます。とある

■エコチル調査参加状況

参加者数	10776人
出生数	6888人

※福島県内、12月10日現在の状況。

わかっていきます。とある痛み止めは、胎児への影響から原則的には本では妊婦に処方はしません。逆にアメリカでは妊婦のおなかの張りに対して、一番最初に与えられるべき薬とされています。

日本では妊婦への処方が絶対に禁止されている薬の種類は非常に限られていますが、体調崩して医療機関を受診した際には、必ず妊娠中であることを伝えましょう。処方される薬について心配な時は、医師に相談してみてください。

キャラクターの名前が「こぼちる」に決定しました

こぼちる(中央)を囲むのはこぼちるパピとこぼちるママ

■エコチル調査に関する問い合わせは…

エコチル調査コールセンター
☎0120(327)735

午前9時～午後5時受け付け。土・日曜日、祝日を除く

エコチル福島

平成25年12月21日号

今回は、エコチル調査福島ユニットセンター橋本浩一センター長に「エコチル調査の現状」について話を伺いました。以下は橋本センター長の話。

登録は3月末まで 福島県の調査状況

皆さんいかがお過ごしでしょうか？最近インフルエンザが流行しています。外出時には入念にマスクを着用し、帰宅時には手洗い、うがいを心がけましょう。かわいいうちやさん、家族が風邪をうつさないことが最も大切です。

平成23年1月から東北北相双地域を対象に開始されたエコチル調査、開始直後東日本大震災に見舞われましたが、平成24年10月から対象地域が福島県全域に拡大され、多くの皆さんが参加してくれました。現在の状況を紹介します。

現在、全国15ユニット全体で、妊婦さんの参加者が目標の10万人には届いていません。

福島県は妊婦さんお母さん約1万2000人、お父さん約7000人、赤ちゃん約8000人と、全体で約2万7000人の方が参加登録をしています。1月末時点、これは福島県民195万人の1%を超える人数、全国15ユニットの中で最も参加者数となりました。

皆さんのエコチル調査への理解と協力によって、調査開始以来、福島県の2人に1人の妊婦さんが参加してくれています。参加登録は3月末日をもつて終了します。本調査へ期待の大き

状況などについて集計結果が報じられました。一部は新聞などでも紹介されていますが、環境省のホームページでもお知らせしていきますので、ぜひご覧ください。

エコチル調査は参加登録期間を終え、今後13年間、皆さんと一緒に歩むスタートラインにたどり着いたことです。「福島で産み育てる」ことを応援し、手伝いすることを最大の目的とし、子供たちの成長を今後も見守り続けます。

■エコチル調査参加状況

参加者数	12045人
出生数	8116人

※福島県内、2月18日現在の状況。

■エコチル調査に関する問い合わせは…

エコチル調査コールセンター
☎0120(327)735

午前9時～午後5時受け付け。土・日曜日、祝日を除く

エコチル福島

平成26年2月28日号

3. ニュースレター(平成25年10月発行)

ふくしまエコチル新聞

Japan Eco & Child Study
2013年秋号

■発行
エコチル調査福島ユニットセンター
〒960-1295 福島市光が丘1(福島県立医科大学内)
郡山事務所
〒963-8024 郡山市朝日町364
レジデンス朝日第2ビル2階

■問い合わせ
エコチル調査コールセンター
0120(327)735
平日9:00~17:00受付。土・日曜日、祝日、
年末年始は休み。
<http://www.ecochil-fukushima.jp/>

「エコチル調査は未来の子どもたちへのプレゼント」
エコチル調査
福島ユニットセンター長
小児科医師 橋本浩一

平成23年1月に開始されたエコチル調査は、北海道から沖縄まで約8万人の妊婦さんに協力してもらい、「エコチルママ」10万人の目標に向けて順調に進んでいます。そして、約5万人の「エコチルキッズ」も誕生しています。

福島県では昨年10月より県内の妊婦さん全員が調査に参加可能となり、現在1万人近くのエコチルママがいます。福島県だけでなく、全国でも調査の説明を受けた妊婦さんの約80%が参加。日本中で関心が高まっているのが分かります。

「日常の生活環境が子どもの健康にどのような影響をあたえるのか」を明らかにするのがエコチル調査です。特に身の回りの化学物質に注目し、その他の環境要因として、遺伝的要因(体質)・社会要因(住環境など)・生活習慣要因(食生活など)・そして放射線被ばく量も合わせ、総合的に健康影響を調べます。放射線被ばく量に関しては、昨年10月から全国の調査地域で調べることになりました。

参加登録は来年の3月31日まで。おなかの赤ちゃんと生まれてから13年間、半年ごとにお子さんの成長を見守り、赤ちゃんとやがて大人になり、自分の子どもを安心・安全に産み育てるときに結果が役立ちます。お父さん、お母さんにとっては、自分のお子さんと将来のお孫さんへのプレゼントです。

これからもエコチル調査を通して、「福島で産み育てる」ことを応援します。



ユニットセンターのRCからメッセージ

RC(リサーチコーディネーター)って?…調査対象者のママ・パパへの「声掛け(リクルート)」と「調査の同意をもらうこと(インフォームド・コンセント)」を担当しています



私たちがRCに気軽に声をかけてくださいね

県内各支所のRC。左から(上段)／高野澤令子、和田みゆき、箱崎敦子、大槻紀子、渡邊幸子、松本美沙、鈴木雪恵、(中段)／鈴木里美、田山潤子、村上真希、白岩京子、栗田令子、土田友理枝、鹿田祥子、(下段)／関根睦美、池田洋美、三瓶つる子、佐久間真智子、折笠真由美、遠藤亮子、吉田理恵子、藤澤由香、内藤美穂子。写真には写っていませんが、石橋純恵、坂本美貴子、武内佐起子、小倉由貴子、小針淳美、金澤恵子、田中悦子、木下さゆり、小林まゆみ、市原とよみ、谷平ひさ子、金成睦子もRCとして活躍中です

エコチル調査 福島ユニットセンター副センター長 佐藤 哲志

「子どもたちによりよい、よりやさしい環境を…」それがエコチル調査の目指すものです。そして、調査にご参加いただくことを通じて皆様のお子様の成長を見守っていく調査です。長期にわたる調査ですが、参加者様、関係機関の皆様のご理解とご協力によって目的を達成することが出来ます。

福島県のエコチル調査参加者数は一万人近くとなりました。これは、全国の15ユニットの中で一番です。福島県、そして全国の子どもたちの今と未来のために、より多くの皆様のご参加と、引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

エコチル調査 郡山ユニットセンター RC責任者 折笠 真由美

エコチル調査は子どもの成長と関わりのある「環境問題」に、国をあげて取り組んでいる大きなプロジェクトです。郡山事務所のRC責任者に就任してから2カ月が経ち、このような調査に関わることの重要性、そして誇りと責任を実感しています。

エコチル調査はママ・パパの協力があってこそ成り立つもの。そしてその「思いやり」は未来の子どもたちにつながっていきます。これからも、1人でも多くの子どものために「声掛け」をしていきます。

郡山事務所より

県中地区は郡山・須賀川方面15の協力医療機関において13名のRCが丸となって長い期間にわたる調査をこれからも見守っていきます。

医療機関のスタッフと連携し、協力してくれる方の積極的な姿勢に感謝の気持ちを忘れずに、これからも頑張ります!

会津支所より

八重の桜でもピックアップされている会津。日新館や、什の掟など歴史的にも教育熱心な土地柄です。

会津でも多くのママ、パパに協力してもらっています。調査で得られた情報は子どもたちの健やかに育つ環境を作るための貴重なもの。これからもスタッフ一同見守っていきます。

県南支所より

県南地区は白河厚生病院、塙厚生病院、片倉医院、茨城県太子町の岩佐医院で昨年から調査の参加への呼びかけを行っています。

各病院には明るく元気なスタッフが常駐しています。参加している方、これから参加する方も、見かけたら気軽に声を掛けてくださいね!

いわき支所より

いわき地区は8つの産婦人科の協力のもと、スタッフが笑顔でエコチル調査を行っています。参加してくれているママや赤ちゃんの姿に、いつも元気をもらっています。

産婦人科に常駐しているスタッフは育児の悩み相談など、調査以外にもママをサポートしていきますよ。

★協力医療機関等のスタッフにも484人のRCがいます。いつも笑顔で調査を支えてくれています。

エコチル調査実施状況

福島県のエコチル調査参加者は9000人を越えました

9月19日現在、福島県には9228人のお母さん、5148人のお父さんが参加しています。また、5412人の赤ちゃんが誕生しました。この数字は全国に15あるユニットの中で1番の数字です。

参加理由としては、「自身がアレルギー体質なので気になる」、「初産で不安だったけれど育児相談をしつつ見守ってもらえる」などの声が聞かれています。エコチル調査の参加登録は平成26年3月末まで。引き続き参加への協力をお願いします。

【参加後の調査】

時期	調査内容	時期	調査内容
妊娠前期	診察記録票記入 質問票調査(父母) 母体血(約30ml)・尿(約50ml)採取 父血液(約30ml)採取	出産入院時	母体血(約20ml)採取 紙血採取(子) 毛髪採取(母)
		生後1カ月	質問票調査(母・子) 母乳(約20ml)採取 毛髪採取(子) 診察記録票記入
妊娠中期	質問票調査(母) 母体血(約30ml)・尿(約50ml)採取	生後6カ月	質問票調査(半年に1回)
出産時	さい帯血採取(約20~35ml) 診察記録票記入	13歳	

**参加した方からは
こんな声も！！**

子育てが大変で、最近では笑うことも少なくなっていました。子どもと一緒に心から笑うことが出来ました。

とっても楽しく、大人も子どもも大笑いでした！

初めて子連れでコンサートに参加しましたが、楽しそうにしている子どもの姿に申し込んで良かったと思います。



**【これまでの開催】
エコチルコンサート in 会津&in いわき**

6月15日に会津若松市文化センター、7月13日にいわき市文化センターで、「エコチルコンサート」を開催しました。第1部では「エコチル調査についての話」、第2部は「歌と笑いのエコチルコンサート」が行われました。

第2部には歌の「萌子先生」としてテレビで活躍中の中村萌子さんが「さんぽ」などのおなじみの歌、そして「なんでだろ〜」のフレーズが大人気のテツandトモが楽しい踊りを披露しました。子どもたちもステージに上がって一緒に歌って踊って大盛り上がり。子どもはもちろん大人まで、みんなの笑顔が弾けるすてきなコンサートになりました。



郡山・福島でも開催！

11月10日(日) 郡山市民文化センター 中ホール 開場13時30分 開演14時
11月16日(土) パルセイイざか コンベンションホール 開場13時30分 開演14時

**エコチルコンサート
県内各地で開催！**

「風船の国のアリス」のパフォーマンスにみんな大喜び！



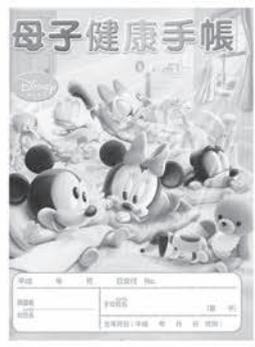
小野寺アナウンサーと玉置さんによる読み聞かせ。みんな絵本に近づいて夢中です。

絵本の読み聞かせイベント in 白河

ふくしまFMで放送している「よ・み・き・か・せ」の公開収録も兼ねた絵本の読み聞かせを8月18日に白河市で実施しました。

ふくしまFMアナウンサーの小野寺彰子さん、「絵本カフェいさいおうち」のオーナー玉置まどかさんが読む絵本に子どもたちも釘付け。絵本に近づき、真剣な表情で聞き入っていました。パルーンパフォーマンスもあり、子どもたちは大喜び。絵本とますます身近になったイベントでした。

**親子で楽しむ
よみきかせ**



【母子健康手帳の特長】

- 医師・助産師・保健師・看護師などの健診や保健指導の記録、保護者のコメントも記載できる
- 病院のカルテと違い、自宅で保管可能
- 予防接種の記録帳として活用
- 記録することによって保健医療に関わるスタッフと保護者のコミュニケーションを円滑にできる

【母子健康手帳はママ・パパの健康教育教材】

母子健康手帳はいわゆる“ミニ育児書”。約100ページの中に、以下のことが書かれていますよ。
・育児のしおり・事故の予防・乳幼児の栄養（離乳の進め方の目安）・予防接種について・歯の名称と生える時期・主な母子医療と公費負担・各市町村の相談窓口など。

☆もう一度読み返すと、新しい発見や学びがあるかもしれません☆

皆さんは母子手帳にきちんと記録を付けていますか？ わが子と言えど、全て覚えておくのは不可能。きちんと記録しておくこと、やがてお子さんが成長し、一緒に振り返る時に役立ちます。今が子が父親になりませんが、自分の母子手帳を、きちんと振り返ってみましょう。



福島ユニットセンター RC 責任者 半澤ハル子

日本の母子健康手帳は、妊娠中から幼児期までの健康記録を1冊にまとめるため、保護者の元で保管されています。これは世界でもめずらしいことでも貴重です。この機会にその特長や活用方法を、きちんと振り返ってみましょう。

**母子健康手帳の活用
〜先輩ママからのアドバイス〜**

帳を見ては「すごい記録だね」、自分の子どもの成長と比較して「順調だね」と話しています。

エコチル掲示板

母子健康手帳に「エコチルシール」を貼付けしてください
また、小児科受診の際は「エコチル調査」に参加していますとお伝えください。

生後6カ月以降の調査票について
生後6カ月以降の調査票は、半年ごとにご自宅に郵送させていただきます。記入の上、到着から2週間程度でユニットセンターに返送してください。

住所変更の際はユニットセンターまでお知らせください
住所等に変更がありましたら、お手元の登録内容変更届または電話でご連絡ください。
福島ユニットセンター 【福島】024(547)1449
【郡山】024(983)4780

ふくしまFMのラジオ番組「よ・み・き・か・せ」を提供しています
芸能人や声優で構成する「よみきかせ隊」が絵本などを朗読。親子の想像と創造を刺激する番組です。お子さんやお腹の赤ちゃんに話しかけながら一緒に過ごす時間を設け、ゆったりとした気持ちで聞いてみてください。
★毎週月～木曜日 16:45～16:55 放送中！

子育ての話

2歳児について



お話を伺ったのは…
郡山市鶴見坦保育所 所長 嶋崎尚子先生

2歳前後はちょうど「イヤイヤ」が始まる時期。服を選んだり靴を履いたり、自分でやりたいが増えてきます。特に朝の忙しい時などに「この服はイヤ」などと始まる。ついついお母さんは「早くして」と急かす言葉をかけがちですが、そういう時にはひと呼吸置いて、お子さんの気持ちを一度受け止めてから優しく声をかけてあげてください。そうすると、お子さんも上手に気持ちを切り替えることができるかもしれません。保育園でも、友達の間でおもちゃが気になって取り上げようとしてしまった時などに、「そのおもちゃが欲しかったのね」と、まず気持ちを認めてから「でも〇〇ちゃんは泣いてるね、きっとそのおもちゃで遊びたかったのね」とまわりの様子を話すと、すんなりと納得してくれることが多くあります。お子さんの「イヤイヤ」は自我が育ってきているという証。お子さんの気持ちにしっかりと向き合って、「大人にとって育てやすい子育て」ではなく、「子どもの自信につながる子育て」をしていくことが大切ですよ。

4. エコチル調査協力医療機関

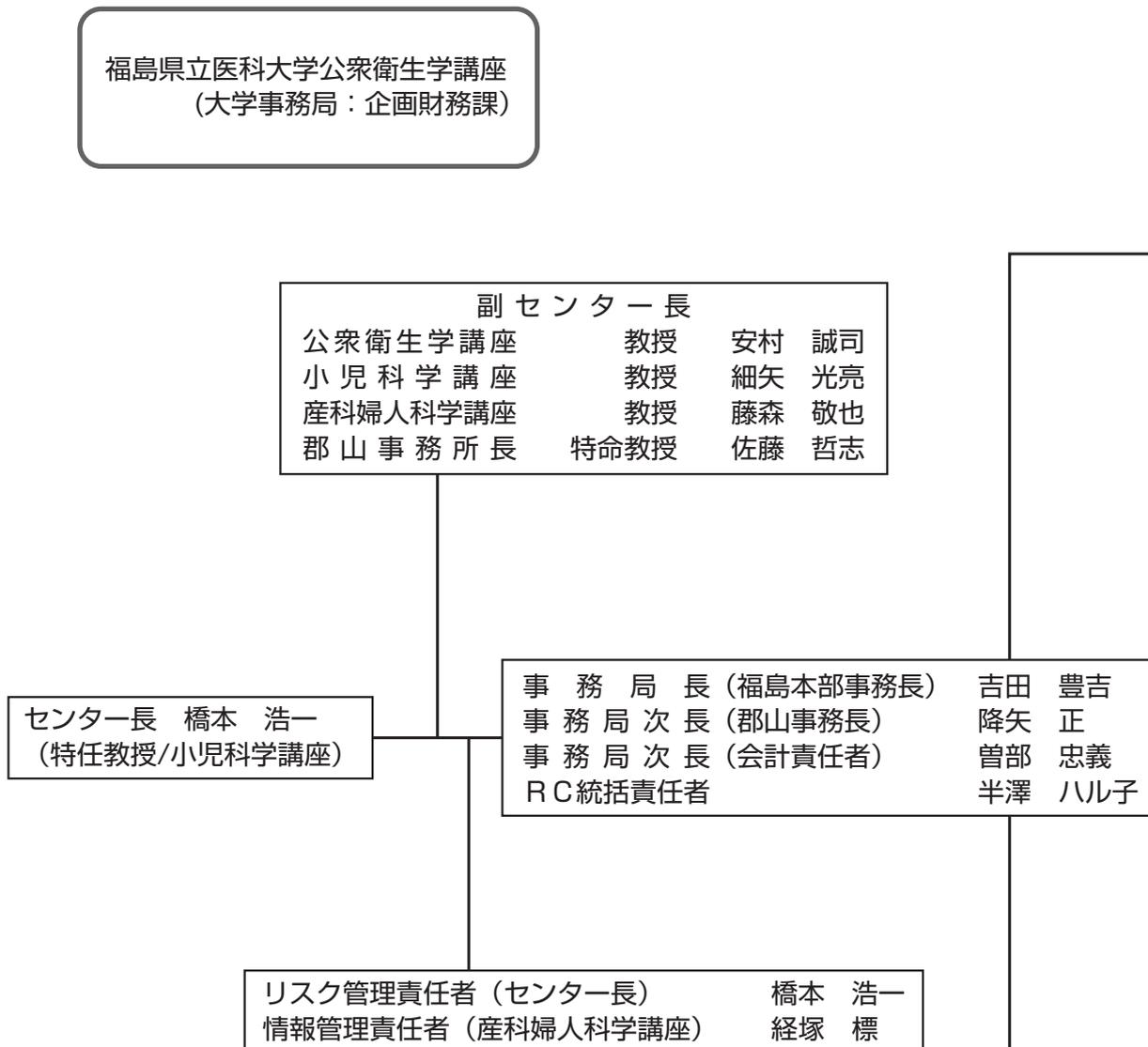
平成26年3月31日現在

担当	SRL 医療機関 コード	エリア	協力医療機関名	郵便番号	住所	備考		
福島本部 事務所	85	県北 (16)	1 福島赤十字病院	960-8117	福島市入江町11番31号			
	86		2 明治病院	960-8012	福島市北町2-40			
	87		3 いちかわクリニック	960-0112	福島市南矢野目字鼓田6-1			
	88		4 ささや産婦人科	960-0241	福島市笹谷字石田5-15			
	89		5 新妻産婦人科	960-8032	福島市陣場町9-18			
	90		6 本田クリニック産婦人科	960-1101	福島市大森字赤沢97-6			
	91		7 済生会福島総合病院	960-1101	福島市大森下原田25			
	92		8 大原総合病院	960-8041	福島市大町6-11			
	100		9 福島県立医科大学附属病院	960-1247	福島市光が丘1番地			
	341		10 大川レディースクリニック	960-8152	福島市鳥谷野字天神3-11			
	342		11 菅野産婦人科医院	960-8157	福島市蓬莱町2丁目1-11			
	361		12 セイントクリニック	960-0684	伊達市保原町上保原字大地内39-4			
郡山 事務所	402	県中 (11)	13 二本松ウイメンズクリニック	964-0911	二本松市亀谷1-275			
	403		14 社会保険二本松病院 産婦人科	964-0315	二本松市成田町1-553	～平成25年3月31日終了		
	404		15 渡辺医院	964-0876	二本松市正法寺町186-1			
	405		16 医療法人慈久会 谷病院 産婦人科	969-1131	本宮市本宮町字南町裡149			
	406		17 たなかレディースクリニック	960-0209	郡山市御前南5丁目28番地			
	407		18 岡崎産婦人科	960-0107	郡山市安積2-335			
	408		19 寿泉堂総合病院	963-8002	郡山市駅前1-1-17			
	410		20 塚原産婦人科内科外科医院	963-8025	郡山市桑野2-34-12			
	411		21 慈繁会付属トータルヘルスクリニック	963-8841	郡山市山崎171			
	368		22 太田西ノ内病院	963-8558	郡山市西ノ内2丁目5番20号			
	412		23 星総合病院	963-8501	郡山市向河原町159-1			
	414		24 (財)脳神経疾患研究所付属総合南東北病院	963-8052	郡山市八山田7-115			
	415		25 古川産婦人科医院	963-8871	郡山市本町2-10-11			
	367		26 国立病院機構福島病院	962-8507	須賀川市芦田塚13番地			
	416		27 小森山産婦人科医院	962-0052	須賀川市大字西川字後田97-27			
	417		28 片倉医院産科婦人科	961-0971	白河市字昭和町1			
	418		29 白河厚生総合病院	961-0005	白河市豊地上弥次郎2-1			
	419		30 塙厚生病院 産婦人科	963-5405	東白川郡塙町大字塙字大町1-5			
	450		31 岩佐医院	319-3526	茨城県久慈郡大子町大子1828-7	福島県民のみリクルート		
	420		32 舟田クリニック産科婦人科	965-0006	会津若松市一箕町大字鶴賀字下柳原34			
	369		33 竹田総合病院	965-8585	会津若松市山鹿町3番27号			
	421		34 会津中央病院	965-0011	会津若松市鶴賀町1-1			
	423		35 坂下厚生病院	969-6556	河沼郡会津坂下町逆水1856			
	福島本部 事務所		424	相双 (9)	36 あらき産婦人科クリニック	976-0036	相馬市馬場野字山越55	
			93		37 南相馬市立総合病院	975-0033	南相馬市原町区高見町二丁目54-6	
			94		38 レディースクリニックはらまち	975-0014	南相馬市原町区西町2-71-1	
			95		39 西潤マタニティクリニック	975-0001	南相馬市原町区大町1-99	
96		40 原町中央産婦人科	975-0006		南相馬市原町区橋本町1丁目3-2	産婦人科医院を閉院		
97		41 大町病院	975-0001		南相馬市原町区大町三丁目97			
98		42 双葉厚生病院	960-0231		福島市飯坂町平野字三枚長1-1			
99		43 今村クリニック	979-1513		双葉郡浪江町大字幾世橋字辻前47-1	震災で閉院の為、地域運営協議会委員辞退		
457		44 公立相馬総合病院	976-0011		福島県相馬市新沼字坪ヶ迫142	緊急搬送(児のみ)受け入れのみ		
郡山 事務所		425	いわき (9)		45 村岡産婦人科医院	971-8151	いわき市小名浜岡小名4-7-1	
	426	46 渡辺産科婦人科		972-8318	いわき市常磐関船町塚ノ越62			
	427	47 かたよせクリニック産科・婦人科		972-8316	いわき市常磐西郷町字金山70			
	428	48 NOBUマタニティークリニック		970-8044	いわき市中央台飯野4-18-2			
	370	49 いわき市立総合磐城共立病院		973-8555	いわき市内郷御厩町久世原16			
	429	50 森田泌尿器科産婦人科医院		970-8026	いわき市平字作町2-8-1			
	430	51 つくだ町産婦人科医院		970-8026	いわき市平字佃町5-4			
	431	52 月川レディースクリニック		970-8026	いわき市平字童子町2-6			
	432	53 佐藤マタニティー・クリニック		979-0141	いわき市勿来町窪田町通1-124			

エコチル調査中断中

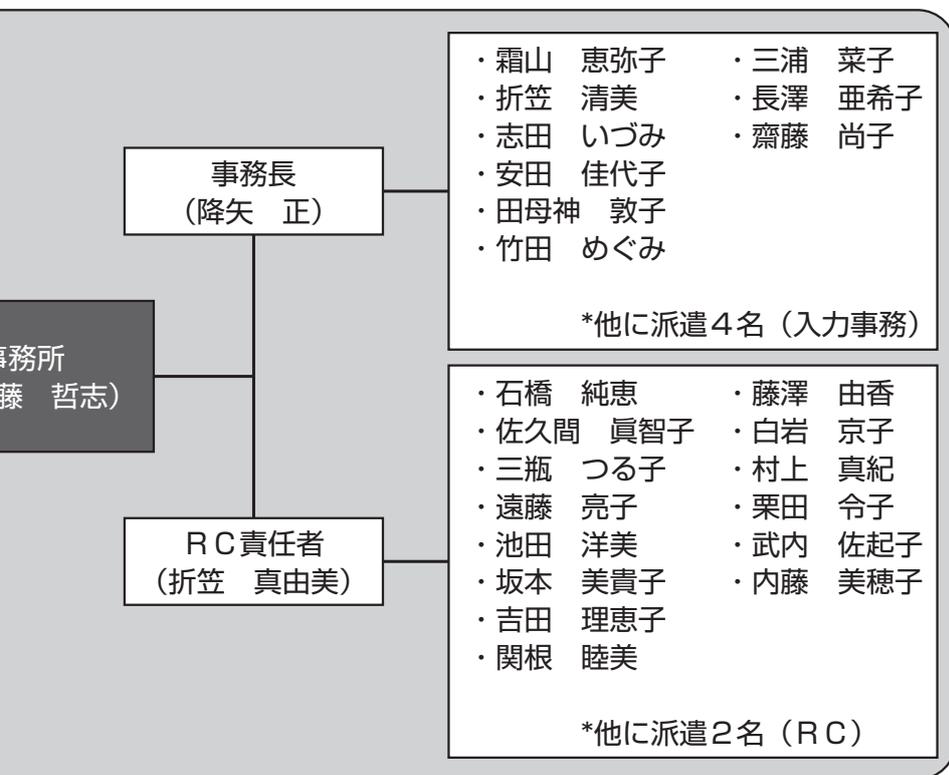
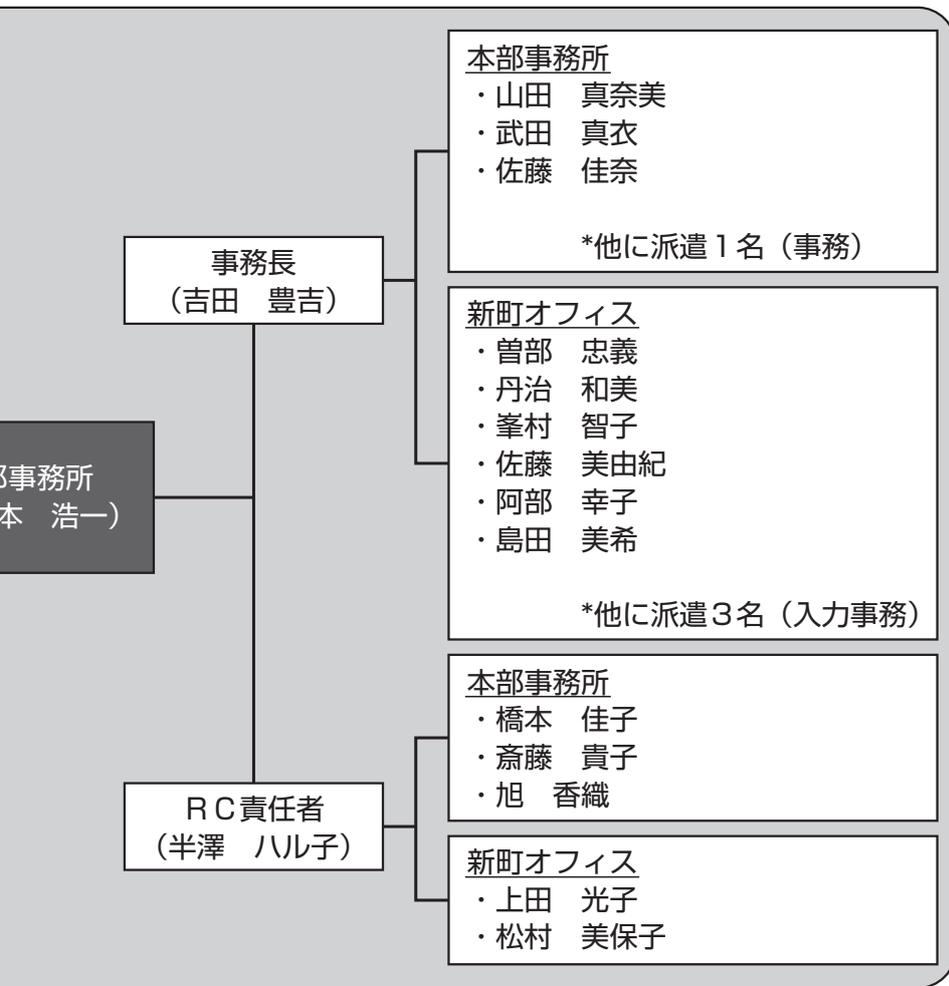
5. 平成25年度 福島ユニットセンターの組織図

(平成26年3月31日現在)



※事務局職員数 59名

- { ・ 福島本部事務所 16名
- { ・ 郡山事務所 43名



県南支所

- ・金澤 恵子
- ・大槻 紀子
- ・小倉 由貴子

会津支所

- ・渡邊 幸子
- ・鈴木 雪恵
- ・松本 美沙
- ・鹿目 祥子
- ・土田 友理枝
- ・小林 まゆみ

*他に派遣1名 (RC)

いわき支所

- ・高野澤 令子
- ・箱崎 敦子
- ・金成 睦子
- ・谷平 ひさ子
- ・齋藤 睦子
- ・鈴木 里美
- ・田山 潤子
- ・和田 みゆき
- ・大平 道子

*他に派遣1名 (RC)

編集・発行

福島県立医科大学

エコチル調査 福島ユニットセンター 福島本部事務所
本部事務所

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
TEL 024-547-1447 FAX 024-547-1448

*お問合せ窓口 TEL 024-547-1449

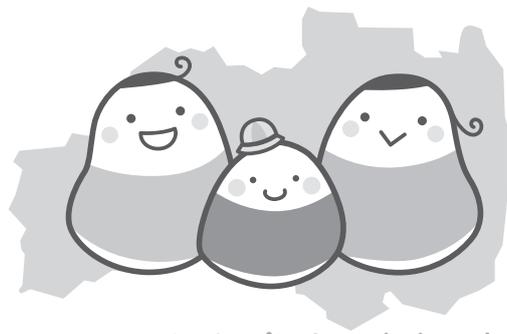
新町オフィス

〒960-8036 福島県福島市新町4番19号
山口ビル2階
TEL 024-523-5535 FAX 024-523-5537

エコチル調査 福島ユニットセンター 郡山事務所

〒963-8024 福島県郡山市朝日3丁目6番4号
レジデンス朝日第2ビル2階
TEL 024-983-4750 FAX 024-983-4751

*お問合せ窓口 TEL 024-983-4780



エコチル★ふくしま
Eco&Child Fukushima